

ひとり暮らしでも安心して暮らせる
「ひと・地域・仕組み」のまちづくり事業
報告書

2022



いつもそばに

作詞・作曲 守田涼子

もしもなれるなら
優しい風になりたい
あなたのまわりを 包む風

もしもなれるなら
花のかおり運ぶ風
まどろむあなたに
夢の花畑

※さあ 窓を開けて 風が吹く
一人じゃない一人じゃない
いつもそばに

もしもなれるなら
光る風になりたい
窓辺のカーテン 揺らす風

もしもなれるなら
小鳥の歌運ぶ風
たたずむあなたの 夢が広がってく

※くりかえし

< 目 次 >

1. ごあいさつ
2. 事業報告概要
3. 「ひと・地域」づくり
 - ※オープンスペース（おしゃべり会）
新：東区・南区・西区
既存：あいぽーと
 - ※学習会
 - ※ささえ愛活動
 - ※学生ボランティア
4. 仕組みづくり
 - ※委員会
 - ※報告会（案内チラシ）
5. 相談支援
 - ※新規相談内容 2022.04～2023.02
 - ※相談支援件数集計結果
6. アンケート集計結果
7. 会だより
8. メディア掲載

ごあいさつ

NPO法人でんでん虫の会

代表 吉松裕藏



2010年の春に始まったでんでん虫の会は「ひとりじゃないよ」を掲げ、13年間に約800名の方々がつながりました。ひとり暮らしを支え合う活動のために一番大事にしてきたのは毎週の「おしゃべり会」です。熊本地震などの災害や新型コロナの感染が拡大する中で、毎週顔を合わせながらおしゃべりする大切さを再発見しました。「感染防止のため会場が閉鎖されるのは仕方ないけど、感染の不安より集まれない不安の方が大きい」との参加者の声に励まされました。

2022年度は、日本財団の支援を受け、ひとり暮らしの方々が安心して暮らすための「人づくり、地域づくり、仕組みづくり」に取り組みました。まず、だれでも参加できるおしゃべり会を地域に広げるため、熊本YMCAの施設3か所を提供いただきました。各校区の民生児童委員や地域包括支援センターなどと連携が深まり、新たな**「地域づくり」**が生まれました。運営にあたってはコーディネーターやボランティア、さらに、傾聴ネットキーステーションの方々も加われ**「人づくり」**が進みました。生きづらさを抱えた方々の相談支援に携わる諸団体による委員会が組織され、行政やマスコミの方にも陪席いただき**「仕組みづくり」**について熱心な議論がなされました。さらに当初計画にはなかったアンケートを実施し、ひとり暮らしの実態がより明らかになりました。

会の活動のためには事務所家賃や水光熱費、通信費などは最低限必要ですが、マンスリーサポーターや賛助会員の皆さんが支えてくださいました。さらに、有給職員が一人もいない中、スタッフの皆さんが汗水流して活動を担っていただきました。 **ありがとうございました。**

事業報告（概要）

2022年度の「でんでん虫の会」は、日本財団助成金による『ひとり暮らしでも安心して暮らせる「ひと・地域・仕組み」のまちづくり』事業を実施し、身寄りのないひとり暮らしの人たちなど、いろいろな生きづらさを支えあいながら安心して暮らすことのできる地域を作るために活動を展開することができました。以下に概要を記します。

① ひとづくりのために

孤立しがちなひとり暮らしの方々に寄り添うことを希望する支援者を募り、おしゃべり会に参加する事や年2回の傾聴学習会を通して支援ボランティアを10名以上養成することができました。

② 地域づくりのために

熊本市内の校区社協や地域包括支援センター、傾聴ネットキーステーションをはじめとする民間団体と協働し、新たなオープンスペース（おしゃべり会）を3ヶ所（東区；YMCA ながみねファミリーセンター、南区；YMCA みなみセンター、西区；YMCA 本館）を開くことが出来ました。

③ 仕組みづくりのために

委員会を年4回開き、支援団体間の連携を図り、新たな支援の仕組みを明るみにし、その報告書を500部作成し、報告会を3月25日に実施し、関係機関に配布することができました。

④ アンケートの実施

新たなおしゃべり会を実際に開催して、個人情報保護の壁などもあり、広報後に地域の対象者が足を運ばれるようになるまでには思った以上に時間をかける必要があることがわかった。委員会において、人が集まらなくても継続することが大切だとの見解で一致、各コーディネーターと他の支援団体との連携による働きかけを継続し、後半は全会場10人前後が安定して参加されるようになった。それを受け、地域で暮らすひとり暮らしの実態（熊本は熊本地震や豪雨災害などを経験しているため他地域の孤独孤立アンケートと異なる可能性を考慮して）をもっと把握するために会員を対象としたアンケートを実施することとなった。

「ひと・地域」づくり

※オープンスペース（おしゃべり会）

東区

2022年6月～2023年2月までの東区おしゃべり会は31回実施、参加延べ人数236名でした。はじめは不安いっぱいでした。一人対一人の時もありました。2ヶ月経たないくらいで二人になり、傾聴さんの協力が助かりました。少しずつ増え始めて、今ちょうど良い感じで、初めての参加の人もちょうど良い人数で、何より楽しそう。一時間では足りない時もあるので（盛り上がりすぎて）30分くらい延ばしてもいいかと。

今後はテーマ等、個人個人で考え出し合いながら、外での活動もやりたい。（カラオケ、食事会、花見、ウォーキング、グランドゴルフ etc…すでに一部で話が出てます）

坂本さだ子



南区

2022年6月～2023年2月までの南区おしゃべり会は30回実施、参加延べ人数181名でした。南区会場を担当させていただきありがとうございました。会場協力頂いたYMCA様に感謝します。毎週水曜日、休んではいけない、病気になったらいけないとプレッシャーの日々でした。内容もマンネリ化しないように事前準備に時間をかけました。おしゃべり会に参加された方は、少人数ならではの楽しさを感じていただいています。地域の方がギター持参で参加頂き、大きな声を出して歌うことで老化防止にもつながっています。

多くの方におしゃべり会の存在を知っていただくために、チラシの工夫、内容の充実、広報のやり方、まだやれる事はたくさんありそうです。地域の方に楽しんで参加していただく場所作りに頑張りたいと思います。

吉富文字



西区

状態の悪い時の自分なりの対処法や映画の話などテーマは色々ですが、社会から阻害されている、対人関係で生きづらさを体験しているなど、コラボ開催の生きづらさカフェでの出会いが大きかったです。話をして吐き出す事で少し元気を出してまた社会へ出ていく。次のステップ、何かのきっかけになればいいと感じました。zoomでの当事者会に県外からの参加もありました。

倉元富美代



『生きづらさカフェ』へただの居場所へ
「生きづらさ」を日々抱えて生きている人達の集まり



精神障害を抱えている方の望ましい社会的
孤立状況がある。また様々な理由で「生き
づらさ」を抱えている人達の集まり
です。

普段はなかなか話しかけづらい自分の
「生きづらさ」について話合います。互いに
解決策やヒントが見つかることも、同じ「生き
づらさ」を抱えている人達とつながります。

開催場所：生きづらさカフェ（〒900-0001 富山県富山
市本町1-1-1）
※本町1-1-1は徒歩5分程度です
※本町1-1-1は徒歩5分程度です
※本町1-1-1は徒歩5分程度です

場所：熊本YMCA本館
日時：2月4日(土) 2月18日(土)
3月4日(土) 3月18日(土)
時間：PM14:00～16:30

※同じく熊本YMCA本館 段山町
駐車場もありません(無料)



KIKURASA_CAFE

あいぽーと

2022年4月から2023年2月までのおしゃべり会(あいぽーと)の報告をさせていただきます。毎週水曜日14時から16時前まで開催しており、前半の1時間はテーマを決めて参加された方々にお話をさせて頂いています。後半の1時間は各々で趣味(塗り絵、編み物、将棋など)や参加された人同士で自由におしゃべりをして頂いています。45回開催して延べ参加総人数は1057名、1回の平均参加人数は23~4名となっております。7月8月は新型コロナ数が増えたことによりおしゃべり会参加を見合わせる方がおり、平均参加人数は18~19名と少なくなりました。参加される方の多くが一人暮らしで60歳以上と高齢が多く、人と話をする機会が少なく週一回のおしゃべり会を楽しみに参加されています。福祉関係の勉強や興味のある学生の参加も時々あります。

居場所がない、話す相手がいない等、色々な方が参加されており今後もおしゃべり会を継続して行く事が大切なことと感じています。

小嶋行雄

「笑いヨガ」を体験してもらった時、参加者の皆さんから「楽しかった」「またやりたい」と感想をいただいた。終わった後、私の笑いクラブに以前参加されていた方が「お久しぶりです。Kです」と挨拶された。ビックリと嬉しいこと、それから笑いクラブにも毎回参加されるようになった。また、笑いクラブに参加されていた方にでんでん虫の会を紹介した。最初は緊張の様子だったが、今では活動に積極的に参加される程になられた。毎月の活動報告をまとめながら、交流会や居場所づくりまた、ささえ愛活動など「つながる」ことの大切さとでんでん虫の会の必要性を感じた。

大塚美津代

※学習会

本年度は、傾聴学習会を実施しました。

NPO法人傾聴ネットキーテーションの日高治代先生を講師に迎え、1月18日、2月8日の2回行い、それぞれ約20名が参加しました。1回目は、価値観は人によって違う、自分の価値観を相手に押し付けない事、相手を丸ごと受けとめる事を学びました。聞き上手になるコツを教えていただき、早速隣の方とロールプレイングをしました。どうしても会話の中に自分の価値観で話を割り込んでしまい、傾聴の難しさを痛感し、自分を見直す良いきっかけとなりました。2回目は、存在認知・認めてほしいと思う心を学び、ロールプレイングで知識を深めました。参加者が真剣な眼差しで聞かれており、3回目を期待する声もあり実施して良かったと思います。今後は学んだことを日常生活で活かしていくことが大事だと思います。

吉富文子



「働くことのできる社会構築」
「けいちょう」
傾聴勉強会 **参加無料**

コロナ禍により人との距離感を感じる今、「聴き方」次第で人間関係がよくなり、あなたらしく生きるためのコミュニケーション力を高める秘訣「傾聴」を学んでみませんか？

【日時】 第1回：1月18日(水) 15:00~16:30
第2回：2月8日(水) 15:00~16:30
※各回の内容は異なりますので、是非、2回ともご参加ください。
【会場】 市民活動支援センター・あいぽーと (熊本県中央公民館1F-1)
※おしゃべり会の隣に実施します。
【講師】 NPO法人傾聴ネットキーテーション
【定員】 30名
~お申込み・お問い合わせ先~
NPO法人でんでん虫の会 TEL:096-297-8116
〒961-8501 熊本県熊本市中央区下町1-1-1 市民活動支援センター



※ささえ愛活動

ささえ愛活動では、通院の手伝い・買い物支援・草取り・部屋の片づけ・掃除・教会の掃除・食料調達・逝去時の遺品整理とお見送りなど、内容も多岐にわたり活動しています。福祉制度では出来ない活動なので助かります、と言われていました。

皆さんのお困りごとを聞き、今年はフードバンクの件数が多くなっていると感じました。年金受給者、生活保護受給者、両方受給している方、今までと金額がさほど変わらない生活で現在の物価上昇が生活を困窮させているように思います。フードバンク活動の重要性が益々必要になってきています。これからも連携しながら活動を続けて行こうと思っています。 倉元富美代



【でんでん虫の会 ボランティア活動】

ボランティア活動は無理せず楽しく参加しましょう
心と体が健康になります！

自分が困ったらボランティアを頼みましょう
お互いさまで、助け合いましょう

<参加時の注意点>

1. 待ち合わせの時間を守りましょう
2. 欠席は早めに連絡しましょう
3. ケガのないように注意しましょう
(ケガをしたら各自の健康保険で治療してください)
4. なるべく「個人賠償責任保険」に加入しておきましょう
(他人の物を壊した時などに備えておけます)
5. わからないことができたらスタッフに聞きましょう

※学生ボランティア (NPO 法人ドットジェイピー)

私が印象に残った活動は、おしゃべり会です。何の役割も無く、そこにいだけでもいいという「ただの居場所」は貴重なものであると学びました。また、困っている時に話し相手が欲しいというお話も聞き、人と人の会話はとても大切なものだと感じました。

熊本県立大学環境共生学部 1年 西村優希



今回は研修会の様子を体験させていただきありがとうございました。

中でも私が特に印象に残った点として、孤独・孤立に悩む人の中でも外出頻度が1か月未満の人が約4割もいるという現状についてです。コロナ禍というもあり、人との交流・つながりが保ちにくい世の中で、今後新たな施策や政策で改善していく必要があると再認識できました。

熊本県立大学総合管理学部 1年 杉崎凧

私はおしゃべり会や会員宅訪問に参加し、おしゃべり会ではどの会場でも参加している方全員が楽しそうで一人一人が話を傾聴しており、アットホームな雰囲気だと感じました。会員宅訪問では様々な体験談を聞き、会員の方が共通して、何でも相談に乗ってくれるでんでん虫の会に支えられていると仰っていることが印象的でした。 熊本県立大学総合管理学部 1年 宮口栗汰

私が印象に残ったことは、話さなくても、ただ「おしゃべり会」という空間にいただけでその人にとっては素敵な居場所になると会員の方がおっしゃっていたことです。孤独・孤立で悩んでいる、一人でも多くの人にでんでん虫の会のこと、おしゃべり会の存在を知ってもらいたいと感じました。 熊本県立大学総合管理学部 1年 阿部知夏

※参加者の声

<IK さん>

いつも楽しい時を過ごさせて頂いています。クリスマス会、又それぞれの会でのテーマ運営をされる方々のご苦勞を思います（又色々参考にさせて頂き勉強になります）。でも一番大切な楽しいという思いは毎回同じです。私にとって一番印象深かったのは“熊本弁”です。私もこちらに引っ越してもう40年になり、大阪より長いのに！！まだ知らなかった言葉があり、方言の深さを改めて知りました。あと3月までですが今後も続けられると良いのにな～と思います。いつもありがとうございます。

<ST さん>

楽しく参加させて頂いています。お話だけではなく変わったこともやっていくと面白いかなと思いました。始めた参加された方にはでんでん虫の会の事を簡単に説明されたらと思いました。私が初めて参加した時はハガキとでんでん虫の会の説明文書頂きました。その時、年会費がある事を知りました。

<IG さん>

新型コロナウイルス感染拡大から3年になりますが、最近人の行動も制限が薄れたように感じます。こんな状況の中で外出も出来なくて寂しい気持ちを抱えて生活されている方は多いと思います。でんでん虫の会のおしゃべり会が地域別にある事を知りました。是非情報交換にと参加させて頂いています。会場の雰囲気も明るく感じています。参加されている方に男性が毎回同じ方々ですが楽しみです。当日スタッフの方がテーマを決められて色々おしゃべりをしながら皆さんの表情なども見えてきます。又テーマに応じて価値観の違いもある様に思います。スタッフの気配りとその方に対する思いやりの助言も良いです。一時間の内容がとても貴重な時と感じています。

<MM さん>

地域の一人暮らしの方は、この様なおしゃべりの場所を求めておられてると思います。長嶺のおしゃべり会は少人数なので自分の意見など話せることが出来、そこから皆さんそれぞれの話で話題が膨らみ、和気あいあいと楽しい時間だと思います。又、参加者の特技など披露されることでその方の生き甲斐にも繋がっていくのではないかと感じました。もっとたくさんの方がおしゃべり会を知り、こんな場所がたくさん広がっていく事を願います。

<SG さん>

令和4年11月14日（月）より参加させて頂き毎回元気をもらっています。課題がある日は今迄自分自身が気付かなかった事、答えたくても言葉として出てこない知らない自分がある事など勉強になりました。課題がない日（何でもいいので自分の思っている思いをお話して下さい。どんな小

かたらんね？ おしゃべり会に！

熊本地震、新型コロナ、豪雨など次々と襲う災害の中で、苦しさを抱えた人たちが急増し、孤立・孤独社会はますます深刻化しています。

2010年春、ひとり暮らしをされていた元ホームレスがアパートで孤立死。死後2か月して発見されたことをきっかけに、

「ひとりじゃないよ」を掲げて **でんでん虫の会** が生まれました。

以来、おしゃべり会を市民活動支援センターあいばーとで毎週開いてきましたが、日本財団のお支えと熊本YMCAのご協力をいただき、**東・西地域**でも開くこととなりました。

でんでん虫の会の名前は、「**だれでん・かれでん**」からつけられており、どなたでも参加できます。特におしゃべりしたいおひとり暮らしの方、一緒に **かたらんね？**

また、おしゃべり会のお手伝いや、困りごとを抱えているひとり暮らしの方々に寄り添っていただける **ボランティア** を募っています。

エリア	会場	曜日	時間帯	開始日
東区	ながみねYMCA（長瀬南3）	月	14:00～15:00	6月20日～
南区	みなみYMCA（田辺5）	水	14:00～15:00	6月22日～
西区	YMCA本館（段山本町4）	土	14:00～15:00	6月25日～
中央区	あいばーと（交通局前）	水	14:00～15:00	開催中

・趣味活動の希望があればおしゃべり会の後に行きます。

・物品販売や宗教活動への勧誘はご遠慮ください。

・コロナ感染対策として室内ではマスクを着用され、飲物は自分でご用意ください。

主催・連絡先：NPO法人**でんでん虫の会**

熊本市中央区九品寺3-3-26 (096) 297-8 116



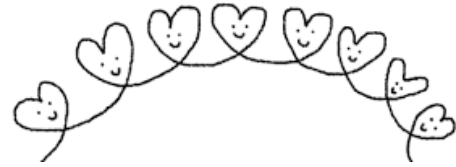
さな事でもいいですよとの問いかけ)は皆様それぞれのお話される様子がとても楽しそうで、笑いあり笑いありの雰囲気がとても大好きです。型にはまらず優しい場所であってほしいな～と思っています。スタッフの皆様ありがとうございます。

<OT さん>

今日も楽しかったです。

1月16日(月)

いつも楽しいな。



<WB さん>

この会に参加させていただいて約半年余り過ぎました。私にとってこの会に参加したきっかけは、知人の紹介であり、その同時期に家族の事情により気分的に落ち込んでいる時でした。結果、坂本さんのリーダーシップの成果と、この会への参加者全員の一つの考え方が一致し、気さくな人間関係とがうまく楽しくお話ができ、また、しゃべられる明るい雰囲気が参加者同じだと私は思います。この会が益々の発展と永遠に続くことを期待して今後も参加したいと思っています。ありがとうございます。よろしくお祈いします。

<SY さん>

1. 「楽しいおしゃべり会にする」のポリシーが良かったです。
2. 色々な楽しい企画を準備していただけて変化があって良かったです。
3. 真夏の期間の猛暑日でも老人会の会長さんが殆どをご参加頂けたのは良かったです。
4. 老人会のお仲間の方が参加し始めていただけて良かったです。

【課題】参加者を増やす…15名～20名位まで

1. 会場への移動手段が容易であるか
 - ・徒歩圏の方々へのアプローチを強化する
(民生員さんからチラシ配りと共に声かけしていただく)
2. 参加したくなるメリットがあるか
 - ・承認欲求の充足
(話をしっかりと聴いてもらえていると思える)
(関心を持ってもらえていると感じられる)
(自分の事を覚えてもらえてると感じられる)
 - ・希望者には「傾聴ネットキーステーション」とのコラボで聴いてもらうなど



<YN さん>

昨年は「でんでん虫の会」に参加させて戴き楽しい思いでいっぱいでした。今年もよろしくお願い致します。一番感じたことは“おしゃべり”が本当に楽しいということです。たくさんの人達のおしゃべりを聴くことにより知識が増えることも嬉しいですね。歌をうたうのも楽しいです。YMCAの近くの人達に参加していただくのが一番良いと思うのですが、興味があつたらチョット遠くても来ていただければと思いますので「この場所で、この様に楽しいおしゃべり会が開かれている」ということを知ってもらう為に、地域への働きかけ、人への伝達誘い合せて来て頂けるように宣伝することと思いますが、手立ては人との交流を生かす。チラシの配布だけでは難しいとのこと。

<HE さん>

- ・コロナ禍の中、このような会を企画されたこと、とても有意義だと思っています。
- ・参加して感じたことは、進行役の吉富さんの明るさがそのまま反映されていて楽しく笑顔の一時間で、時にはギターの弾き語りもあり会員さんの多才ぶりに脱帽です。
- ・毎回の進行内容、学びになります。
- ・地域の方々への呼びかけはどんな場合も難しいです。社協、民生委員、自治会のご支援はもちろんですが、短期間ではなかなか難しさを感じますよね。人集めは永遠のテーマだと捉えます。

<KD さん>

おしゃべり会についてご提案をいたします。

まずは、「おしゃべり会」の存在を知らしめることから始めましょう～

また、会のマンネリ化を少しでも防ぐために皆で創意工夫を致しましょう～

【例として】

- ① 独居老人を誘う→民生委員の方へ依頼し、受け持ちの独居老人の方々へ声掛けをしてもらい一緒に参加する。
- ② 高齢者に限らず、世代や地区の垣根を取り除き、年に数回を合同で開催する。
- ③ 開催する会で何を話すのか事前に通知※今年初の会は全員に年頭の「一文字」を書いて説明をしてもらおうと良かったかな!?
- ④ 参加される方へ個人的に講師となってセミナー等を実施する機会を設ける。※参加される方の存在感をデフォルメ



人とひととの出会いほど、人生を彩るものはありません。多くの方々に出会う楽しさを体験して貰いたいと願っています。

<KU さん>

明るく支えて頂きありがとうございます。🍀

いつか聞いたひとつの案なのですが…Cafe (カフェ) が出来たらと思います! 自主的なスタッフの集まりで (ルールもゆる〜く!?) メニューは Café の名前のようにコーヒーのみでスタート。段々軌道に乗ればお好みでクッキーとか和菓子をつける (ケーキは色々大変かなど) 位にして接客する。スタッフや集まる人たちの安らぎや憩いの場になることを目指す。(コーヒーはインスタントからでもいいかと…目指すのは専門ではないと思うので) ただあまり負担にならず、皆で集まりひと時を楽しく過ごす場所になればと思います。素人考えでおかしいかとは思いますが、勇気を持ち提案しました。よろしく願います。早卯コロナが下火になり色々な意味でみんなの活動の場が広がることを願っています。スタッフの皆様にはいつも感謝の気持ちで一杯です。

P.S.私はでんでん虫の会で毛糸編みを知り、今は生きがい?ともなっています。私のような人が一人でも増えることを願っています。(おかげさでなく、1cmでも前へ進め、心がホッとするような、それだけでいいかと…低くていいのです)

「仕組み」づくり

※委員会

「ひとり暮らしでも安心して暮らせる「ひと・地域・仕組み」のまちづくり」

第一回委員会 議事録

日 時 2022年5月30日(月) 18時30分～20時00分

会 場 熊本YMCA本館

<委 員>

熊本 四季子 (YMCA)、光永 尚生 (YMCA)、鳥崎 一郎 (校区社協)、徳永 裕人 (地域包括支援)、
那須 久史 (熊本学園大学)、西川 信子 (会員)、日高 治代 (傾聴)、樋口 務 (KVOAD 災害支援)
計8名

<陪 席>

甲斐 芳信 (会員)、坂本 さだ子 (会員)、永田 貴子 (会員)、福井 一基 (熊日新聞)、吉富 文子 (会
員)、吉松 裕藏 (会員)、渡邊 吉晴 (熊本市健康福祉政策課) 計7名

1. 挨拶 でんでん虫の会代表 吉松 裕藏
2. 自己紹介…全員自己紹介
3. 委員長選出…那須久史氏を選出
4. 協議

① 事業説明

- ・概要
- ・進行状況
- ・おしゃべり会スタート日
(チラシ案) …6/20 (月)・6/22 (水)・6/25 (土)
- ・自治会と校区社協の連絡方法
- ・参加者声かけのこと
- ・相談者への対応(連携)のこと
- ・ボランティア募集のこと
- ・ボランティア学習会のこと

② 意見交換

- ・YMCA；場所を貸すにあたって、もともと地域と課題を共有することが目的の一つであるため、共働させていただきたい。
- ・どういう支援？一人一人の困りごとに具体的に対応する？会のイメージから思うにかなり深くまでかかわることになるのでは？
- ・校区で相談を受けるようになって校区外の相談も増えているため、自分たちだけでは難しい面もある。
- ・この事業を実施する中で手伝える人の輪を広げていきたい。



- ・独居、男性、高齢の方々に支援の受け入れが困難な例は多い。
- ・自分で出来るから大丈夫だと言って支援につながらず困難事例となりやすい。
- ・おしゃべり会やボランティアの関わりを通して支援につながりやすくなるとありがたい。
- ・地域の方の把握は民生員が一番できていると思う。
- ・傾聴は支援まではしていない。話を聞いて寄り添うところまででいいのか。
- ・おしゃべり会参加者の話を聞いて、相談をシェアしてつなぐをお互いにやっていくことでOK。大事なのはつないでいくこと。
- ・交流会であがった相談を、ひとつづくりで養成した方につなぐ。
- ・交流会のニーズがあがれば、それをターゲットに学習会の内容をイメージしたらどうか？
- ・災害ボランティアの中では、地域課題を共有して次の災害に備えるためにコンパクトな地域組織を再構築していく時だと感じている。
- ・おしゃべり会に参加しているが、年齢もいろいろ、世間話からはじまって不思議と「楽しかったね」など帰りにはプラス思考になっている。
- ・おしゃべり会は安心できる場であり、参加者から自分はこれができるよ、という声が自然に出てくるところがある。
- ・校区社協連絡協議会からおしゃべり会場に近いところなどに案内してはどうか？
- ・会場校区のささえりあにまずは限定して案内して、そこから自治会長や民生委員に声かけしていくといいのではないか。
- ・各校区の民生委員に連絡可能と思う。(月1定例会を開いている)
- ・案内だけではなく、「出てくださいそうな人(支援者としても)がいませんか？」という呼びかけまでする。
- ・参加されるといいなと思われる人を地域で発見する仕組みがポイントだと思う。
- ・「一緒に行きましょう」という誘い方をイメージできるように呼び掛けられるかどうかは大事なところだと思う。
- ・内容は各会場や参加者などによって違ってくると思っている。
- ・YMCA各地域の運営委員会にも顔を出して話す機会を持てたらと思う。
- ・行政は縦割りで細部まで目が届かない。そういう方をつないでくれば共に支援にかかわれる。行政と民間との連携が取れていくところが大切だと考えている。

第二回委員会 議事録

日時 2022年8月1日(月) 18時30分～20時00分

<委員>

熊本 四季子 (YMCA)、鳥崎 一郎 (校区社協)、徳永 裕人 (地域包括支援)、那須 久史 (熊本学園大学)、西川 信子 (会員)、日高 治代 (傾聴)、樋口 務 (KVOAD 災害支援) 計7名

<陪席>

坂本 さだ子 (会員)、永田 貴子 (会員)、吉富 文子 (会員)、吉松 裕藏 (会員)、米村 雅広 (会員)、渡邊 吉晴 (熊本市健康福祉政策課) 計6名

・東区…毎回参加される方が一人できた。来るときに必ず近所に



声かけしてくれる。

コロナや暑さで出かけないこと、参加したいけれども送迎が必要など課題あり。

毎週やっていることに驚かれた。きちんと広報していく必要性を感じている。

- ・南区…ささえりあ、社協長、傾聴の方の参加あった。百歳体操時に声かけしてもらった。新規相談者予定入ったが土砂降りではなかった。

傾聴の方からは聞き方のアドバイスあり勉強になった。

家にいると聞けない情報が良かったという声あり。

- ・西区…コンビニにもチラシ置いてもらえたが参加者ない日が多かった。

参加者が企画している「生きづらさカフェ」の話聞き、8月～月1でコラボ開催することにした。

- ・傾聴の参加者より…私は何をしに行っているのか？何を求められているのか？わからなかったという感想があった。

- ・グループより一対一でじっくり聞くのが傾聴のスタイルだと思うので、傾聴の方が参加の時は一対一の時間を作るといいのではないかな。

- ・おしゃべり会(あいぽーと)参加者の声…コロナ感染者が急増する中でも会場が閉鎖されない限り開催してほしい。

「家にこもったら寂しい。週1を楽しみにしている。」

「2～3人で話したときは結構話が止まらなかった。」

「もってるものを吐き出して安心感が持てた。」

「知っている人がいないと不安そうな方に、ここに来たら皆お友達ですよと伝えた」

「仕事終わりで15:30過ぎに来て話せる時間は短いけど来る、という方がいる」



- ・大江校区社協サロン 8 か所…お茶飲みながらのおしゃべり。顔なじみで新しい人が入りにくいので、別の曜日に別のサロンを開いたりしている。

- ・植木町サロン…多い時で120か所あった。現在90か所位。5～6人や多くて20人位。顔なじみの茶話会。同年代(80～90代)で70代は世話係になるので行きたくないという声もある。

- ・まずは継続が大事と思う。参加者ゼロでも、何曜何時にやってるといふことの認知がされるまで続けることが大事。

- ・災害時も自ら出て行かない人たちをどうやって引っ張り出すかが課題だった。

- ・7月～官民連携のプラットフォームづくりのための実態調査がある。NPOとしていかに継続していくかが課題。

- ・孤独孤立と経済的困窮者の支援が混同されがち。

- ・一人暮らしじゃないとだめですか？と尋ねられた。

- ・「だれでん」とあるが、私行っていいのかな？と思われたり、新聞やチラシにホームレス支援のことがあるので、ホームレスの方が来られるのかな？という声がある。

→どんな方が参加しているか具体例を挙げて案内してはどうか。

- ・要支援になってデイケアのことをはじめって知った80代の方がいたが、知らない人がまだまだ多いから継続して広報必要。

- ・ささえりあでも必要な人にチラシが届いているか把握できない。

- ・直接心当たりのある方に個別訪問したり近所に声かけしたりと考えていてもコロナで控えていた。→コロナ後に拾えるように続ける。

→介護保険ではないが補助金の対象となる「訪問B、D」などあるが、圏域の絞り込みや要支援

者の人数など制約があって活用できていない。

- ・自分はでんでん虫の会があったから人生を出直せた。たくさんの人が集まればいいわけではないと思う。一人でもいい。一人を大事にしたい。
- ・里親にかかわった時、生協の宅配に広報を手伝ってもらった。
- ・高齢者の情報源はネットではなく新聞など紙媒体が多いので、スパイスやリビング、熊日の読者の広場などに載せたらいいのではないか。
- ・行政のHPは、各区役所のHPにあたった方が埋もれてしまわない。
- ・YMCAのHPも検討してみる。
- ・広報には、知らせる働きと誘う働きがあると思う。事情が分かっている周囲の人（ささえりあ、民生委員、自治会長など）に誘ってみようと思ってもらう広報が必要。
→安心して暮らせていない方が安心して暮らせるように役立つというメッセージを。
- ・会のノウハウが地域のサロンにも伝わって、近所のサロンがおしゃべり会みたいになったらとてもいいと思う。
→おしゃべり会のストロングポイントを整理して伝えることが大事
- ・市社協が毎年（秋）に行うサロン研修を学習会の場にするのもいいかも
- ・集まっている所に行って「おしゃべり会」を体験してもらおう研修はどうか。
→会合に出張おしゃべり会（学習会）などで知ってもらい、自治会長などが心配している人たちのことを聞く機会にもなる。
- ・出前講座は、民生委員研修会など20分程度。長くても90分で伝えるように組んでおくとよい。
- ・「コーディネーター力」「傾聴力」「情報提供力」「当事者力（社会的困窮）」「広報力」
- ・来た人が支え合える援助システムが作れるようになるのが、でんでん虫の会のおしゃべり会の凄いいところ。
- ・この事業で、担い手（ボランティア）が増えることが成果のポイントとなる。
- ・時間が足りないので、今日の意見をもとにしてどのように学習会などを進めていくか、委員長と事務局で一度まとめて整理し、委員皆さんに伝える。

第三回委員会議事録

日時 2022年11月18日（金）18時30分～20時00分

<委員>

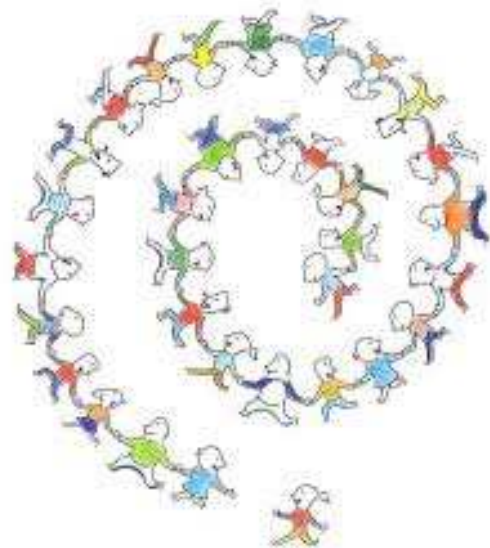
熊本 四季子（YMCA）、鳥崎 一郎（校区社協）、徳永 裕人（地域包括支援）、西川 信子（会員）、日高 治代（傾聴）、樋口 務（KVOAD 災害支援） 計6名

<陪席>

倉元 富美代（会員）、坂本 さだ子（会員）、谷 昭子（理事）、永田 貴子（会員）、原田 智浩（会員）、福井 一基（熊日新聞）、吉富 文子（会員）、吉松 裕藏（会員）、渡邊 吉晴（熊本市健康福祉政策課） 計9名

※那須委員長体調不良で急遽欠席となり進行は委員長代理で吉松裕藏が行った。

- ① . 第2回委員会のふりかえり
- ② . おしゃべり会開催状況報告



- ・開催時は、いつでも Zoom などオンラインで参加できるようにしておくことと県内外問わず、開催地外からの参加もできる。
- ・熊本市はまだ支援団体があったり、交通の便が良かったりして良い方だが、地方や過疎地では高齢者のひとり暮らしには厳しい時代。サロン参加者によっては日頃食べていないと思われるような人もある。
- ・子どもの支援は 18 歳までは手厚いが、それ以降の支援がなくなり宙ぶらりんになるため、NPO など民間の支援が必要。例えばブリッジフォースマイルという団体は熊本市と契約して若者への居場所事業を展開している。
- ・地域に分散して少人数で集まるとというのが地域の力をつける一つの方法ではないか。
- ・25 年前位に不登校が問題になった時と同じような状況に陥っている。当時もただの居場所から社会復帰していった子供たちがいた。不登校は親にとっても地獄である。
- ・人の役に立ちなさい、と言いう過ぎる社会。役に立たなくてもいい。障害の子を育てる親にとってはいてくれるだけでいいと感じる。
- ・空き家問題が社会課題の一つであるが、居場所としてうまく使えないか。空き家バンクなどの活用も一つだと思う。
- ・おしゃべり会で、男性が残って話すのは少ないように思う。自分の日常の大変さなどを話すのが女性よりも苦手かもしれない。声掛けしてきっかけをつくり、話し始めると 30 分くらい話されたりすることがある。
- ・無理してしゃべる必要がなく、人の声が聞こえていて安心していらればいい、という居場所がいいのではないだろうか。いちがいに男性がしゃべらないとも言えないが、比較的、男性は役割を与えられると居づらいのではないか。
- ・地域のサロンはただの居場所になり切れていない。
- ・担当者が継続困難で、新たなおしゃべり会の継続が難しいかもしれないという話を受けて、サロン研修におしゃべり会のような進め方を取り入れて、サロンの幅を広げていくことも考えていくべきではないかと感じた。サロン研修といえば、介護予防など指導的立場のことが多い。ただの居場所的なサロンもつくっていく必要がある。

③ . アンケートについて

- ・新会場で実際におしゃべり会を実施してみて、10 年以上の活動実績があるからと言ってすぐに参加者が集まるというものではなく、開催地ごとに地道に継続していく必要があることがわかった。当初の計画では、新たな参加者のニーズを把握して、新たなボランティアへの学習会をと考えていたが、まだその段階に至っていない。そこで、改めてひとり暮らしの方々が抱えている現状や課題を把握するためのアンケート調査を実施して実態把握することから次年度の活動につなげていくのが良いのではないかと提案させていただく。



- アンケート実施案について協議し、実施の方向性で合意。日本財団に計画変更の打診をして、了解が得られたら 12 月～調査開始、2 月の委員会でアンケート結果について検討分析する。
- 内閣府で孤独孤立に関する実態調査を実施しその結果が公表されているので、アンケート結果と比較してみるとよい。

④．傾聴学習会について

- ・アンケート調査をするにあたって、おしゃべり会参加者など面談が可能な場合は直接聞き取ることも方法に含める。おしゃべり会に傾聴の方の応援を受けて、参加者は傾聴とは何かに触れることができた。聞き取りをするにあたって、スタッフを中心に改めて傾聴を学ぶとより深く話を聞くことにつながるし、今後の活動にも有効であると思われる。

⑤．報告会について

- ・時期や内容については改めて協議する。



第四回委員会議事録

日 時 2023年2月10日(金)
18時30分～20時00分

<委員>

熊本 四季子 (YMCA)、鳥崎 一郎 (校区社協)、徳永 裕人 (地域包括支援)、日高 治代 (傾聴)、樋口 務 (KVOAD 災害支援) 計5名

<陪席>

倉元 富美代 (会員)、坂本 さだ子 (会員)、谷 昭子 (理事)、永田 貴子 (会員)、原田 智浩 (会員)、福井 一基 (熊日新聞)、吉富 文子 (会員)、吉松 裕藏 (会員)、渡邊 勝久 (生きづらさカフェ)、渡邊 吉晴 (熊本市健康福祉政策課) 計10名

※那須委員長体調不良で欠席となり副委員長として樋口務氏が選任され進行を行った。

- ・東区…次年度スタッフはやめるがおしゃべり会は継続の方向で、うれしく思っている。参加者人数は増えて名簿に15名、最大12名、平均8名参加。クリスマス会12名、1月最初も心配したが12名参加された。楽しい温かい雰囲気と評価を受けて今後も頑張ろうと思っている。自分の生活の励みにもなる。YMCA運営委員会で話した際、会場費の確保ができるかわからないことを伝えたが、ワイズメンの方などから支援を呼びかけようと言っていた。
- ・南区…毎回10名弱参加者で、継続は力なりと感じている。イベントや居場所がある地域のため必要ないかもしれないと感じていたが、参加者から継続希望の声があがっているので可能な範囲で継続していきたい。
- ・西区…「生きづらさカフェ」コラボ開催で参加者が増えてきた。特に若い方の参加が特徴的。多い時で17名で焦った。生きづらさのくくりで色々な方が参加。運営やチラシ作りなど手伝ってくれる方も出てきた。グループホームや家で何もせずに孤立している人たちが来てよかったと喜んでいる。自分たちも当事者なので、でんでん虫の会スタッフが一緒に居てくれることで安心感がある。遺族の遺品整理や訪問看護の紹介など相談事があったり、ボランティア希望ででんでん虫の会の活動に参加する人も出てきた。
- ・傾聴学習会…2回とも20名ほどの参加あり、とても真剣に参加されていた。否定せず受け取ってもらえることの喜びを知っているからとても大切なことだと思う、つつい自分の思うことを話

そうとしてしまう、もっと学びたいなどの感想があった。

- ・熊本市より…孤独孤立化の国の政策が進んでいるが、内閣府に孤独孤立対策課が出来て全国29の市町村（熊本市含む）がプラットフォームを立ち上げる地域に認定された。行政と民間を一つにした支援団体をつくることを目指す。現在、子供、高齢者、いのちの電話、などあるが相談者は複合した問題を抱えていることが多く、民間も行政間も連携が必要。熊本は熊本地震後に KVOAD を中心に民間で連携して被災者支援をされていたが、6年以上経過した今も新たなコミュニティで孤立されていたり、家に帰っても困窮状態に陥っているなどが問題となっている。NPO20 団体位がまとまって支援する体制の構築をされ始めた。今後、支援団体紹介のリーフレットを作成して行政窓口置く。3/2 勉強会（内閣府孤独孤立参加を講師に）開催。この会の今年度事業のように継続することが最も大事。各専門が連携することで解決に結びつきやすくなる。
- ・災害弱者は孤独孤立で浮き上がるがどこにつないだらいいか試行錯誤した。孤独孤立しそうな人が声を上げやすい、つながりやすい、行政との相互連携が必要、、、という現場のニーズが具体化して欲しい。
- ・個人情報の壁をどうクリアするか、ケース会議を官民でできるように提携していきたい。
- ・最近もあっちこっち相談したが解決いたらない方の相談を他県の NPO を通じて受けて、一緒に行政の窓口に行く事で解決に向かった例がある。
- ・絶対たらい回しにしない受け皿をつくっていくことを目指したい。
- ・地域のコミュニティの中から孤立孤独に陥っている方を拾っていけるようになる必要がある。
- ・行政間の縦割りの壁も解消していきたい。
- ・アンケートは 191 名に送って 68 名（約 1/3）の回答があった。集計は、個人情報保護の規定を守っていただく誓約をして頂いて会員ボランティアをお願いした。
- ・ひとり暮らしで身寄りはいるけど疎遠の方が最近亡くなった例。亡くなってから身内の方に連絡が行ったが、身内の方は住所もわからず、手元にあったでんでん虫の会の封筒をみて会に連絡があり対応した。
- ・熊本地震の困りごと。住まいの問題が多く、それがきっかけで孤立した方も多い。
- ・日頃の困りごと相談先は、制度の関係機関の手前の所となることが多い。民生委員を知らない方も多い。
- ・コロナの困りごと。会社倒産、自己破産、人との交流なくなって不安が増しているなど。
- ・通信手段、中には公衆電話もある。
- ・多くの方が不安を抱えている。経済的なこともあるが、病気になったり倒れたりした時の不安が多い。
- ・人と会うことによって不安が和らぐということがわかる。
- ・終活は準備されている方は少ない。



- ・訪問などの希望者には早速対応していきたい。アンケートをもとに困りごとへの対応につなげたり、終活に向けての情報提供なども行いたい。
- ・1月～4名を見送った。二人暮らしだった方もあり、遺された方のフォローも課題と感じている。
- ・コロナの影響でヘルパー事業所、あるいは施設が閉鎖されて支援が受けられなくなったこともあるし、本人感染してヘルパーこれなくなり会のスタッフが弁当を運んだ例もある。
- ・必要な方が増えているのにヘルパーの担い手が少なくなっており、事業所閉鎖している所もあるのが現状。
- ・地震の影響でブルーシートがかかっているところもまだある。壁がこわれたままの在宅被災者もいる。
- ・昨年、地震の影響でアパート解体するから引っ越しするよう言われ探すのに苦労した。
- ・災害住宅の保証人のことで相談あった。市町村によって扱いバラバラで、保証人二人、年に2回報告必要というところもある。
- ・災害支援をしていたが、おととしの中央区の方が1階は地震のまま2階で生活されていて、いまだ孤立されていることがわかって孤独孤立の勉強会を始めた。
- ・自分たちの団体だけで支援することは難しいので、市とのプラットフォームは必要。
- ・災害関連死は孤立が関わっていると思う。未然に防げるように、4月から社会的孤立を対象とした大人食堂を大江コミセンで開催することを考えている。
- ・4月以降は新しい会場でも続けていきたい。頻度は変更もあり。色々意見が出ているので進行の内容は参加者に協力して頂き一緒に考えていきたい。会場はこれから具体的に相談していくが、現YMC Aの会場がいいという参加者の声が多い。また、地域住民への訪問を傾聴の方と実施することも相談していければと思う。
- ・大江コミセンにて熊本学習センターが弁当を作って低額で配布することも予定しているので、大人食堂の食材についても相談してみるといいかもしれない。
- ・次年度は他団体との連携を強めて「ひとりじゃないよ」のまちづくりを実施したい話し合い助成金申請中。
- ・倉庫を7月に退去。今年はフードバンク支援が増えたこともあり、相談窓口・居場所・支援物資の中継地点保管倉庫をかねて「ぶらっとホーム」ということで拠点確保ができたらと考えている。

報告会について

日程： 2023年3月25日(土)
 15:00～16:30 YMC A本館
 (ジェーンズホール)



- ・椅子だけなら70名は収容可能
- ・各区の報告・行政からの話・ゲスト歌演奏
- ・案内は、チラシ作成して参加者、傾聴の方、ささえりあ事務局や校区社協などにも
- ・報告書配布・改めてでんでん虫の会の説明も必要

※参加者の声

今回の事業に参加して、生活が困窮だけでなく多様な課題を有する孤立者への支援を「でんでん虫の会」が行っている実情が理解できました。特に、アンケートからは、伴走型の支援が実践されていることも判明し、孤立者とつながりつづけることの必要性も検証されたものと捉えています。

また、孤立している人は、自ら抱えている課題を認識していないことが多とされているが、アンケート結果では、自らの状況と課題を認識しているのではないかと思います。これまでに実施した活動によって、支援を受けた者が支援をする側になるなどの効果も期待できますので、今後の活動を継続されることを願っています。



樋口 務 (KVOAD 災害支援)

4回に渡り、委員会参加させて頂き有難うございました。

でんでん虫の会さんの「ひとり暮らしでも安心して暮らせる「ひと・地域・仕組み」のまちづくり」という素晴らしい目的は私共の活動の基本、傾聴を通じて「だれ一人取り残さない」支え合う社会を作ると同じ考えです。毎回の委員会での他団体さん・他職種の皆様からの貴重なご意見を聴かせて頂き、これからのNPO活動は行政を巻き込み他団体との協働での活動の重要性が大事と痛感致しました。委員会を通じて新たな団体様とのコラボも出来つつあり感謝しています。地域住民さんと共に活動されたおしゃべり会も活発になり担当者様の毎回のご苦勞の賜物ですね。私共の会員も参加出来て有難たいと感じました。又これからのボランティア活動の勉強会として2回開催させて頂きましたが、皆さん熱心に受講されました。お世話になりました。今後も勉強会出来れば良いですね。ありがとうございました。

日高 治代 (傾聴)

委員会では、各回の内容の報告に加えて、各会場のコーディネーターの方が参加者へ真剣に向き合い支援をされている様子が分かりました。必要な方に必要な情報が届き、継続していくことが大切であること、今後、担い手をつくるにはその具体像が必要で、スタッフの学習会では、コーディネーター力、当事者力、発信力、傾聴力など求められる資質の学びが必要など提案がなされました。何よりも、会員の方が積極的に、孤独な方を見つけ寄り添って支援したいという気持ちで活動しておられる姿と会員同士で支え合い意識を高め合って活動されていることが尊いと思いました。委員の方も多方面から関わっておられ、連携した支援活動が今後も継続して実施できると確信しています。

熊本 四季子 (YMCA)

孤立問題に取り組む様々な活動をしている方と知り合えてとても良かったです。今回勉強させて頂いたことを「社協」という器にどのように盛り込んでいくか、皆さんと連携をとりながら取り組んでいきたいと思えます。

鳥崎 一郎 (校区社協)

今年初めて参加させていただき、一年たちました。『おしゃべり会』の立ち上げ当初は参加者が増えず色々と試行錯誤されていた様子でしたが、現在は複数の方が継続参加され、成果が伺えます。コーディネーターさん達も当初の悩まれている姿から先日開催された委員会での報告ではお顔の色も違ったようです。会議中でもあった交通の便など解決しづらい問題もあると思いますが、これからは参加者・支援者が参加しやすい会議を続けて下さい。ボランティア育成についてはコロナ

禍でもあり難しい状況であると思いますが、おしゃべり会を続けていくには支援者のためにも人材発掘が必要だと思います。支援の輪が広がればと思います。 徳永 裕人（地域包括支援）

委員会に参加させていただき、皆様が人とのつながりを大切にしながら真剣に取り組んでいることを実感いたしました。行政として民間支援の協力は必須であり、官民連携のさらなる強化と継続を進めてまいります。 渡邊 吉晴（熊本市健康福祉政策課）

2月10日の18時半から熊本で孤独孤立対策の先陣を切って活動されている「NPO 法人でんでん虫の会」の委員会に参加させていただきました。2回目の参加だったのですが、NPOなど民間の団体から行政（福祉政策課）の人や、福祉の現場で働いておられる方、また新聞の記者の方など、幅広く、色々な人が参加していました。これからの孤独孤立政策の話や、今までの孤独孤立対策の活動の話など具体的に話が進んで行きました。しかし皆さん程よくラフに意見が言いやすい会だったと思いました。行政の政策福祉課の方は今後の熊本の孤独孤立対策として、色んな分野問わずの民間、行政、医療福祉が連携したプラットフォームをつくるという目標を掲げていました。またプラットフォームになぞらえて「ぶらっとホーム」とか言うユニークな意見もありました。これからの孤独孤立の問題に光が少し見えた気がします。社会的孤立を経験した当事者として今後の活動に全力を注いで行きたいです。 原田 智浩（会員）

※報告会案内チラシ（新たに参加された会員さんによってデザインされました！）

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

一般公開の報告会お知らせ

ひとり暮らしでも安心して暮らせる
～ひと・地域・仕組みのまちづくり～

私たちNPO法人でんでん虫の会は、今年度、孤立社会を支えあうことのできる『ひとり暮らしでも安心して暮らせる*ひと・地域・仕組み*のまちづくり』事業を日本財団の助成を受けて実施しました。この度、その活動について報告会を下記の通り開催いたします。是非、お越しください。

だれでも参加できるよ！
お気軽にどうぞ*

日時：2023年3月25日(土)
15:00～16:30
場所：YMCA本館3F
ジェーンズホール
(熊本県熊本市中央区段山本町4-1)
アクセス：市電B系統「段山町」
敷地内駐車場有り(無料)
※エレベーター有ります

名前の由来
『でんでん・かんでん、
じつでん・どこでん、
たれでん・かたれでん』

NPO法人でんでん虫の会
熊本県熊本市中央区3-3-26
info@denden64.org
https://denden64.org
(096)297-8116

※当日ご参加の方には報告書を配布します。

でんでん虫の会とりぐみ

ひとづくり
年5回の学習会を通して、支援ボランティアを10名養成。
ボランティアコーディネーター配置。

地域づくり
おしゃべり会4ヶ所開催。様々な世代や生きづらさを抱えた人たちの交流が可能となり、安心の輪が広がりました。

仕組みづくり
年3回の委員会を開き、支援団体間の連携を図りながら、新たな支援の仕組みを生み出しました。

でんでん虫の会とは？
「ひとりじゃないよ」を合言葉に。ひとり暮らしの会員同士がお互いを支えあうことを目指して、交流活動を中心とし、相談と生活の支援をしています。

アンケートから
「ひとり暮らしとなった原因は何か。熊本地震・コロナ禍の中で孤立が深まったのではないか。」などについてアンケートを実施。

会場提供協力
ボランティア募集してます！

4月からのおしゃべり会
東区ゆながみねYMCA 隔週月曜
南区ゆみなみYMCA 月1回水曜
西区ゆながみYMCA本館 月1回土曜
中央区ゆあいぼーと 毎週水曜日
NEW 『生きづらさカフェ』
大江コミュニティセンターにて

相談支援

※新規相談内容（2022年4月～2023年3月）

- 4/11 就労移行支援事業所より 精神疾患、A型事業所就労中、他にも相談できる居場所を。
- 4/12 本人より 80代女性、おしゃべり会参加希望
- 4/19 本人より 50代男性、仕事を探している、会の活動もしたい
- 4/22 本人より 80代男性、家に人がいる心配だから一緒に来てほしい
- 4/24 本人より 60代男性、半身まひ車いす生活、話し相手が欲しい
- 5/15 本人より 自宅アパートでシロアリ駆除がある、アレルギーがあるので引っ越しするかどこかに身を寄せたい、役所はとりあってくれない
- 5/16 他の支援団体自殺防止〇〇より 40代男性聴覚障害、相談に乗ってほしい
- 5/16 不動産より 借家の草取りがきつくなった、安くお願いできないか
- 5/17 病院相談員より 50代男性、熊本地震から被災され家も仕事もない、生活自立センターにも相談されたが友人宅に身を寄せているので保護の申請もできない、住まいや生活支援ができないか
- 5/17 本人より A型作業所就労中、知人から会のことを聞いた
- 5/20 地域包括より 80代男性、社協につながっているが整うまで1年かかる、金銭管理をお願いできないか
- 5/20 病院相談員より 70代男性、入院中、アパート退去の手続きと片づけ支援依頼
- 5/28 聖職者より 体を痛め仕事できず食べ物がないと連絡受けた、相談に乗ってほしい
- 6/16 地域包括より 80代女性、熊本地震で越してきた、一人暮らし寂しくされている
- 6/17 本人より 80代女性、ご主人亡くされ一人暮らし、不安を共有したい
- 6/27 本人より 70代女性、空き家を地域の役に立てたいので会の活動を参考にしたい
- 6/28 本人より 知人から YMCA 段山でおしゃべり会があると聞いた
- 6/30 本人より 他県にいる無職の兄弟のこと、自分でも何も動かないので将来が心配
- 7/1 知人より 職業訓練所に通っている、コロナで減収、無職に。社協の小口借入、住居確保・生活困窮者給付金などでやりくりした、持病あり入院する時の生活が不安
- 7/5 障がい者支援センター（市外）より 入院時、施設入所時の身元引受、アパート片づけ支援希望
- 7/7 本人より 南区おしゃべり会についてチラシを見て問い合わせ
- 7/7 クリニック相談員より 生活保護受給中、電話なし、引っ越し先を探してほしい
- 7/8 ケアマネより 70代男性入院中、退院後の金銭管理や食糧支援の相談に乗ってほしい
- 7/16 知人より B型作業所就労中、グループホーム転居希望、相談に乗ってほしい
- 7/22 本人より 70代男性、妻亡くし障害ある子供と暮らしている、地域包括よりおしゃべり会のことを聞いた
- 7/25 本人より 住まいのことで相談したい

7/26 本人より 手術時の付き添いをお願いしたい

7/29 支援団体より 他県から熊本に就労した方の相談窓口になってほしい

8/1 本人より 生活保護受給中、アパートに戻りたくないの知人宅や路上生活をしている、扶助費支給日だが口座に入っていなかった、どうしたらいい？

8/2 本人（他県）より 50 代男性、精神障害あり、生活保護受給中、トラウマで生きづらい、熊本の物件をさがしてほしい

8/3 本人より 70 代男性、足腰痛で生活ままならない、手術予定、万が一の時の自分の最期、親の遺骨、先祖の墓のことが心配、身元引受依頼

8/17 本人より 織細さんの性格、仕事の紹介をしてほしい

8/17 知人より 80 代女性通院搬送依頼、手術予定の娘通院支援など相談に乗ってほしい

8/29 人材派遣会社より 派遣会社経由で仕事をしていた方がうつになり退職に、住まいを探して生活保護を受けることを相談したい

9/7 医療機関より 50 代男性 ひとり暮らし、歩く時ふらつく、入院中、近く退院、買い物困難、ささえあい活動で買い物支援をお願い出来ないか。

9/14 医療機関より 85 歳男性 ひとり暮らし、家族とは疎遠、要介護 1〇〇ガン。今回は圧迫骨折で入院中、退院後はひとり暮らしは無理と思われる。施設入所に伴う身元引受や施設探しなど、支援頂けないか。

9/15 本人より トイレの水がタンクに貯まらなくなり、ペットボトルで補充している。業者は高いので、見てもらえないか。

9/15 本人より 目が不自由、左半身マヒあり、生活保護申請するも年金があるため却下。医療費保護だけでも受けてほしい。障がい年金申請したいが診断書代が払えない。社協が訪問されたが、借金はしたくない。2、3 日食べる物が無い。

9/22 本人より 他団体から紹介受けた。両親から出で行けと言われ、車で〇〇県に着いた。所持金なしで、電子マネー残高がなくなった。〇〇市役所で生活保護申請するも断われ、社協も断われた。

9/27 本人より 記事を切り抜いてた。持ち家手放しひとり暮らし予定、身元引受ない。

9/28 本人より あいぽーとでのおしゃべり会の事を聞きいた。誰でも参加して良いか。

9/30 本人より 53 歳男性、緑のチラシを見た。明日西区会場に行きたい。車椅子の方。

9/30 居宅事業所より ひとり暮らし身寄りなし、73 歳男性、引っ越しや入院になった時に身元引受人がいないので相談したい。

10/7 訪問看護ステーションより 市外の方で訪問看護をしている人が社協とトラブルあり他に金銭管理をされている団体を探している。

10/11 知人より 88 歳男性、市外在住、親戚疎遠、在宅療養中、余命 6 ヶ月。カラオケサークルの仲間で、訪問し支援をしている。

10/26 本人より ご主人と二人暮らし。市外在住。誰も相談する人がいない。新聞とネットで見て電話した。話を聞いてもらうだけで落ち着く。

10/30 本人より 4 年前にパルシステムののんびーるに掲載されていたでんでん虫の会の記事を見て、いつか参加したいと願っていた。関東在住。目が悪くなって身体障がい者手帳あり。11 月初旬のおしゃべり会に参加したい。

10/31 ケアマネより 父のケアマネ。父入院中、退院後施設入所になる可能性高く、本人一人暮らしになるので不安。ささえりあからおしゃべり会紹介されて、おしゃべり会に参加しようと言われている。

11/3 本人より 市外在住。身内いないため 70 歳から終活準備し成年後見人も頼んで公正証書も書いた。持病あって手術がいずれ必要になる。成年後見人はまだ自力で生活できるため保証人頼めない。友人が引き受けていいと言ってくれたが病院から身内でないと、また、術前の説明を聞いたり手術当日付き添いなどもしてもらわないと言われた。

11/4 本人より 手紙にて。ホームレス支援団体の情報を検索していたら、でんでん虫が出てきた。おしゃべり会に参加希望。

11/8 本人より 知人に勧められて一軒家をシェアハウスにした 1 室を借りたが、大家ともめて出て行け言われた。ネットカフェにいたが高い。手元現金 1 万位。

11/9 他の支援団体より おしゃべり会に新規の男性が自営会の職員さんと一緒に参加。

11/10 本人より おしゃべり会に行き会のチラシをもらった。こんな会があるとは知らなかった。賛助会員になるにはどうしたら？

11/14 本人より 知人紹介、単発寄付を希望。

11/19 母親より 息子に知人から死にたいとラインあり、ネットで相談先をさがして連絡。

11/21 施設より 入所者の家族が縁を切りたいと言われた。ガン闘病中で成年後見申請しても間に合わないかも。日頃の支援、金銭管理は施設で行う。検査通院と万が一のことをお願いしたい。

11/25 地域包括より 洗濯機を譲ってほしい。本人は在宅療養中、介護保険サービス対応。

11/25 本人より 医療機関より紹介。同居者看取り一人になった。親族とは疎遠。年金暮らし。家賃負担大きい、とにかく一人で今後の事が不安。

11/30 地域包括より 末期ガン入院中。身寄りなし。成年後見申請のため面談したが本人からの依頼意志表示なし。金銭管理で社協紹介。債務整理進めることになると思われる。詳細は退院後に話し合いになると思うが、必要な時に同席してもらえたら。

12/6 本人より 目が不自由、40 代男性。灯油配達をしてくれる所をさがしている。

12/16 地域包括より 80 代女性。おしゃべり会に参加したいと言われている。

12/16 本人より 50 代女性、異臭と騒音で一晩中換気して寒くて眠れず、先週左半身しびれ救急搬送、脳に異常はなかった。その後も眠れぬ日が続き、頭痛外来で睡眠薬処方してもらったが効かない。白湯かポカリかのむゼリー以外は食べれない。不動産からは他から苦情なし、保護課担当も引っ越し認められない、などで、心身共にもちそうにないと思い、ネットで「助けてほしい 熊本市」で検索したらでんでん虫の会が出てきたので連絡した。

12/20 本人より 施設入所していた叔母が亡くなったのでお部屋に残っているものを処分して欲しい。

12/22 居宅事業所より 金銭管理をお願い出来るか。

12/26 知人より 80 代男性、売却し引き払うことになったので転居先を探しているが高齢であるため、どこも断られて困っている。

12/29 医療機関より 外来受診、50 円しかない、年金手続きしてない。昨年亡くなった母親の年金で生活していた。役所に連絡したが担当者いないと言われた。

1/6 本人より 引きこもりになってクリニックに通っているが良くなならない、クリニックから紹介された。

1/6 地域包括より 病院の相談員から連絡あった模様。コロナで入院中、明日解除。認知症が少しあるかも。明日は土曜なのでシェルターないか？

1/7 他県の支援団体より 昨日夕方にメール入っていた。フリーwifi でしかコンタクトとれない。熊本市中央区の公園にいとあったので連絡した。

1/7 地域包括より まだ自立されている方が施設入所に身元引受必要。

1/10 本人より 生きづらさカフェ記事見た。参加予約必要？

1/10 地域包括より おしゃべり会を案内したので問い合わせあるかもしれない。

1/23 本人より 市健康福祉政策課より紹介、冬物の衣類を寄付したい。

1/24 教会より 男性が住み込み荷物を置いている。家が火事にあっただらしい。自立支援センターへ相談したら警察へ話すように言われた。荷物がだんだん増えてきいるがどうしたらいいだろうか？

1/24 本人より 自分の知人が手術を受けることになり、病院から保証人が必要と言われた。市役所へ相談したら医療安全センターからでんでん虫の会を紹介された。身寄りがないので今後のことなどを心配されている。

1/31 他県の支援団体より 生活保護を市役所の職員に無理に勧められ始めたが、生命保険を解約しないと打ち切ると言われた。自立支援センター、子供保健課、いのちの電話、などに相談しても前に進まない。所持金も少なくなった。

2/13 本人より 以前報告会に参加したことがある。会のスタートが死後 2 か月して発見されたことから始まったと聞いたが、その対策はあるか？とのことだったので、そのためにもおしゃべり会を開いていることを説明したところ、一度参加してみたいとのこと。

2/26 本人より 医療機関の紹介、発達障害の娘と同居、相談支援センターや保護課と相談している。母親は通院などのため車は手放せないが、保護課の担当 CW や課長らやっと認めてくれた。自分(母親)が死んだ後のことを考え別居の準備が必要であることを娘に話した。娘の発達障害は「他人との間隔」が苦手なためグループホームへの入居はためらっている。アパート探しもしているが、保証人のことで前に進まないのでは病院と相談したらでんでん虫の会を紹介された。

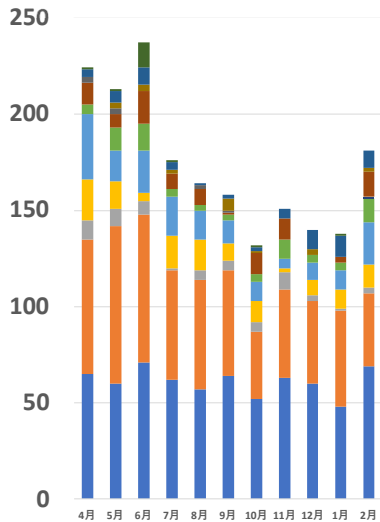
相談支援件数集計結果

相談件数及びつながり先 2022.04～2023.02

年間総計2,345件 (前年同期間3,055件)

正会員

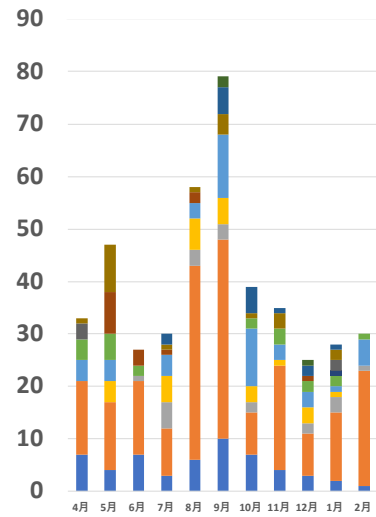
合計1,914件 (前年2,483件)



- その他の相談数
- 身内知人友人
- 他団体相談数
- 司法 警察
- 不動産アパート
- マスコミ報道機関
- 地域包括社協等
- 事業所施設等
- 医療機関病院等
- 行政福祉課等
- 本人電話相談
- 本人面談相談

非会員

合計431件 (前年572件)

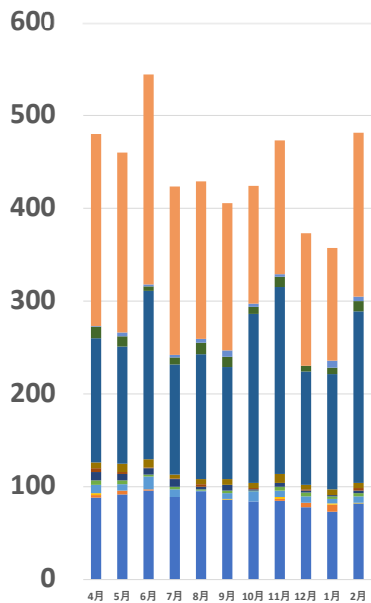


支援件数と支援内容 2022.04～2023.02

年間総計5,321件 (前年同期間5,674件)

正会員

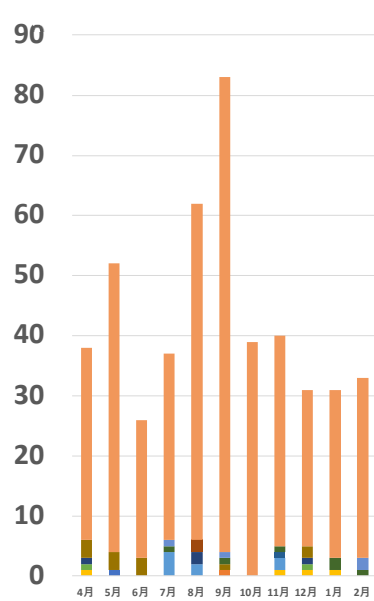
合計4,849件 (前年4,988件)



- 連絡事項その他
- フードバンク
- 家電生活用品食料衣類
- イベント交流支援件数
- 引越、家事清掃片付け
- 就労支援件数
- 身元引受 (入院、住居)
- 行政施設住居買物等代行
- 買物手伝他同行送迎
- 行政病院施設等同行送迎
- 住居施設等案内紹介
- 生活保護申請
- 冠婚葬祭
- 生活費支援

非会員

合計472件 (前年686件)



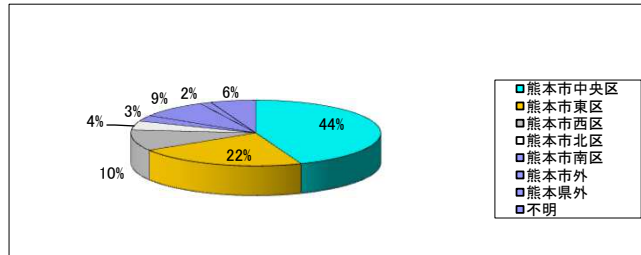
一人でも安心して暮らすことのできるまちづくり アンケート結果

でんでん虫の会会員318名へ郵送依頼したところ、68名からの返答が寄せられた。

グラフ作成は、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク【KVOAD】の樋口務さんに協力いただいた。

Q1 お住まいは？ (N=68)

熊本市中央区	30	
熊本市東区	15	
熊本市西区	7	
熊本市北区	3	
熊本市南区	2	
熊本市外	6	
熊本県外	1	
不明	4	68

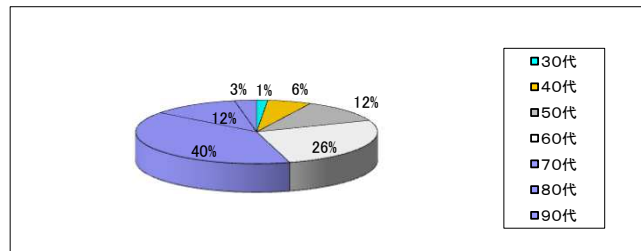


Q2 同居者は？ (N=74) ※複数回答

ひとり暮らしの会員なのでいない人が56名と大半であったが、親や配偶者、子どもと同居の会員もおられる。

Q3 回答者属性【年代】 (N=68)

30代	1	
40代	4	
50代	8	
60代	18	
70代	27	
80代	8	
90代	2	68



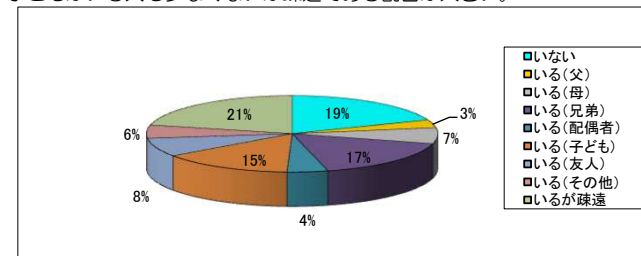
Q4 性別は？ (N=68)

男性32名、女性36名、その他0名であり、ほぼ同数であった。

Q5 身寄りのひとは？ (N=89) ※複数回答

身寄りがない人は17名に対し、兄弟や子どもがいる人も少なくないが疎遠である割合が大きい。

いない	17	
いる(父)	3	
いる(母)	6	
いる(兄弟)	15	
いる(配偶者)	4	
いる(子ども)	13	
いる(友人)	7	
いる(その他)	5	
いるが疎遠	19	89



Q6 ひとり暮らしを始めたのはいつから？ (N=56)

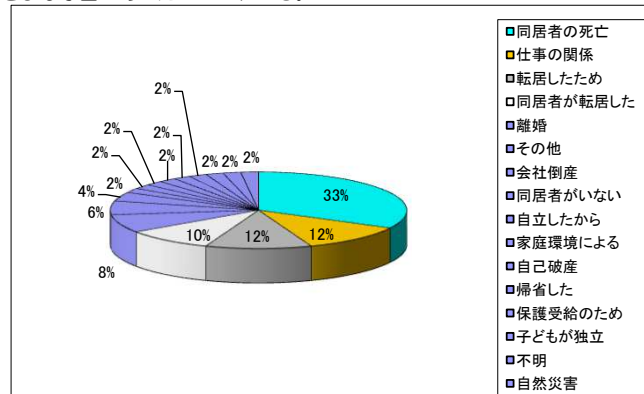
10年以上の人が34名と多く、長年ひとり暮らしをしていることがわかる。

一人でも安心して暮らすことのできるまちづくり アンケート結果

Q7 ひとり暮らしになったきっかけは？（要約、複数回答）（N=52）

同居者の死亡が一番多いが、その他さまざまな原因があったことがわかる。

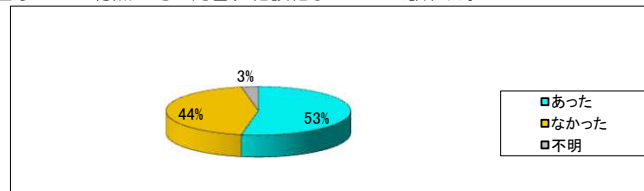
同居者の死亡	17
仕事の関係	6
転居したため	6
同居者が転居した	5
離婚	4
その他	3
会社倒産	2
同居者がいない	1
自立したから	1
家庭環境による	1
自己破産	1
帰省した	1
保護受給のため	1
子どもが独立	1
不明	1
自然災害	1



Q8 熊本地震後の困りごとは？（要約、複数回答）（N=68）

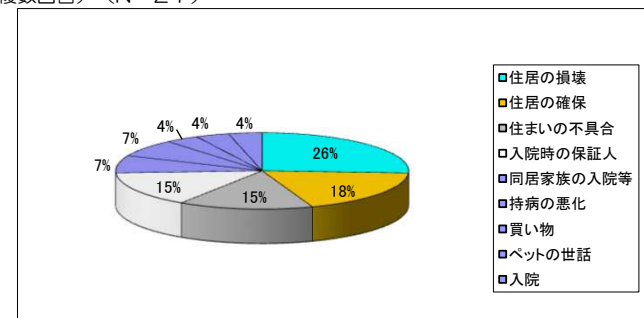
2016年4月に発災した熊本地震による困りごとの有無とその内容、相談相手について訊ねた。

あった	36
なかった	30
不明	2



Q8-1 困りごとの内容は？（要約、複数回答）（N=27）

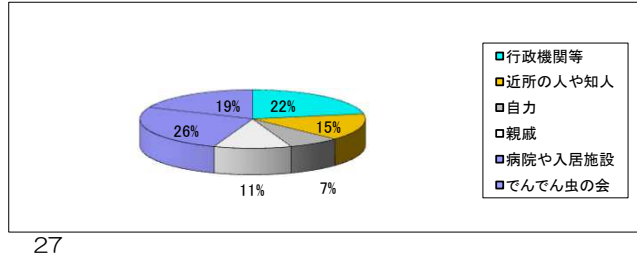
住居の損壊	7
住居の確保	5
住まいの不具合	4
入院時の保証人	4
同居家族の入院等	2
持病の悪化	2
買い物	1
ペットの世話	1
入院	1



一人でも安心して暮らすことのできるまちづくり アンケート結果

Q8-2 困りごとの相談先は？（要約、複数回答）（N=27）

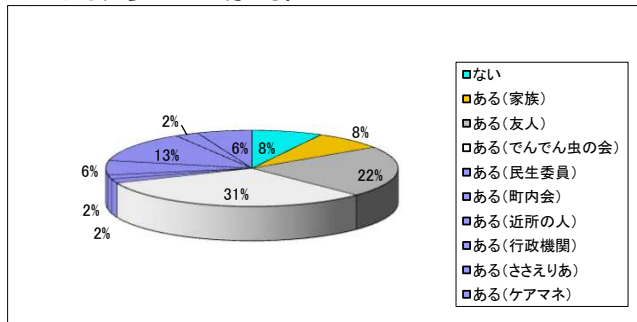
行政機関等 6
 近所の人や知人 4
 自力 2
 親戚 3
 病院や入居施設 7
 でんでん虫の会 5



Q9 日頃の困りごとの相談先（複数回答）（N=115）

困りごとの相談相手としては、友人とでんでん虫の会が多いことが分かる。

ない 9
 ある（家族） 9
 ある（友人） 25
 ある（でんでん虫の会） 36
 ある（民生委員） 2
 ある（町内会） 2
 ある（近所の人） 7
 ある（行政機関） 15
 ある（ささえりあ） 3
 ある（ケアマネ） 7



Q10 趣味は？（N=68）

趣味活動のある人は40名、無い人が18名で多くの方が趣味活動をされている。

Q11 仕事や趣味で人とつながることは？（N=68）

また、仕事や趣味活動で人とつながっていることもわかる。

Q12 おしゃべり会に参加したことは？（N=68）

あると答えた人が45名で、無い人が15名であった。

Q12-1 参加した会場は？（N=53）

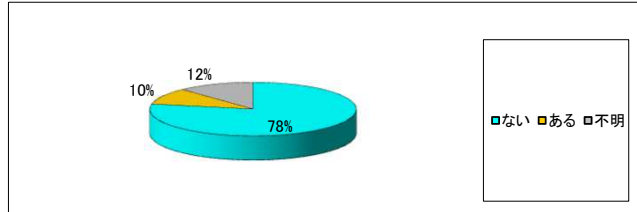
長年続いているあいぼーとに参加した人が39名とほとんどだが、2022年度開始した3会場（YMCA）の参加者も増えてきた。

一人でも安心して暮らすことのできるまちづくり アンケート結果

Q13 新型コロナの感染拡大の影響は？ (N=50)

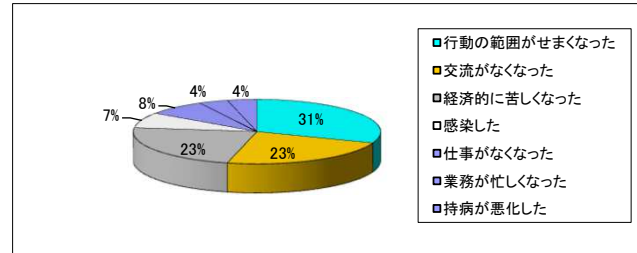
予想に反して「ない」と答えた人が多かったが、ひとり暮らしの方はソーシャルディスタンスに強いのか。

ない	39
ある	5
不明	6



Q13-1 影響した内容は？ (要約、複数回答) (N=26)

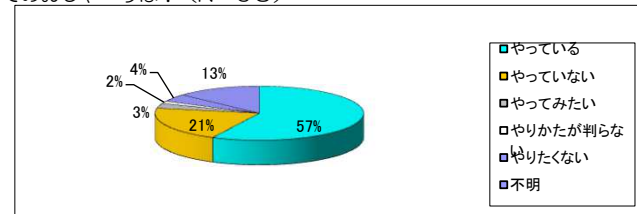
行動の範囲がせまくなった	8
交流がなくなった	6
経済的に苦しくなった	6
感染した	2
仕事なくなった	2
業務が忙しくなった	1
持病が悪化した	1



26

Q14 携帯電話・スマートフォンを使ってのおしゃべりは？ (N=68)

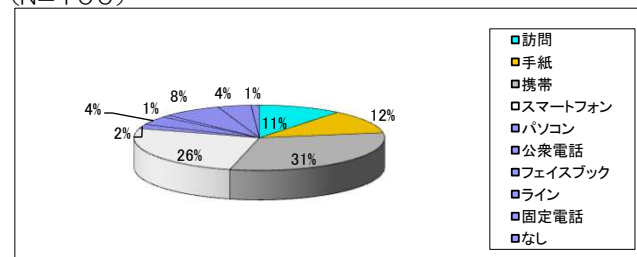
やっている	39
やっていない	14
やってみたい	2
やりかたが判らない	1
やりたくない	3
不明	9



68

Q15 現在の連絡手段は？ (複数回答) (N=100)

訪問	10
手紙	11
携帯	29
スマートフォン	24
パソコン	2
公衆電話	4
フェイスブック	1
ライン	7
固定電話	4
なし	1
不明	7

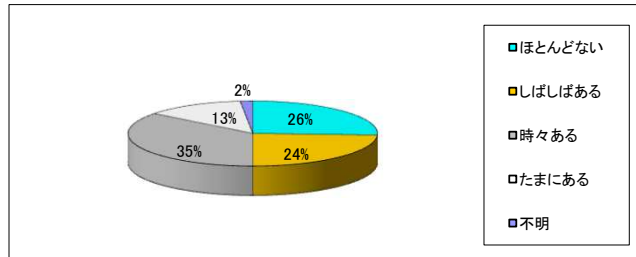


100

一人でも安心して暮らすことのできるまちづくり アンケート結果

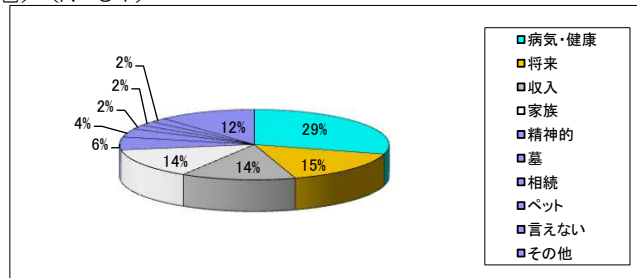
Q15 現在、不安なことは？ (N=62)

ほとんどない	16
しばしばある	15
時々ある	22
たまにある	8
不明	1



Q15-1 不安の内容は？ (要約、複数回答) (N=51)

病気・健康	15	
将来	8	
収入	7	
家族	7	
精神的	3	
墓	2	
相続	1	
ペット	1	
言えない	1	
その他	6	51



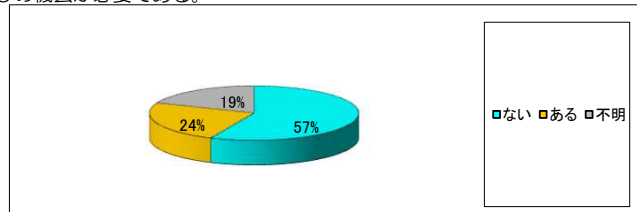
Q15-2 不安を和らげるには？ (要約、複数回答) (N=52)

わからない21名の次に多いのは、話を聞いてほしいとおしゃべり会への参加が16名であった。

Q16 終活への備えは？ (N=37)

「ない」と答えた人21名「ある」と答えた人は9名であるが、部屋の片づけ程度の理解であり、今後エンディングノートなどを使った学びの機会が必要である。

ない	21
ある	9
不明	7



でんでん虫の会だより 2022 春号



会員の皆様の体調はいかがでしょう。

少し寒さも和らぎ、山々には新緑と色とりどりの花々がきれいですね。コロナ禍でも元気づけられます。新年度を迎え、賛助会員様などのご支援に加え助成金事業での広がりが出ています。会員ボランティアの皆様のおかげで、訪問、掃除、買い物、草刈りなどささえ愛活動もこなすことができています。今後、ますますボランティアを募って、楽しく活動できれば最高です。スタッフも皆で頑張りますのでご協力よろしくお願い致します。(米村雅広)

1月からの活動報告

1月～3月おしゃべり会5回 参加者のべ115名 (平均23名)

2022年に入り、おしゃべり会は新型コロナの影響で1月20日から3月31日迄の間、会場「あいぽーと」の利用が出来なくなり、1月開催は1/5、1/12、1/19の3回で参加延べ人数72人、2月は開催が0回、3月は「大江校区公民館」をお借りして3/23、3/30の2回で延べ43人のご参加でした。コロナ禍の中で足を運んで頂き、1回の平均参加者が20人を超えた事に感謝を申し上げます。



4月6日(水)から「あいぽーと」でのおしゃべり会を再開しましたので、よろしくお願い致します

(「あいぽーと」1階イベントコーナー、毎週水曜日14時～15時、一時間程度、色々なテーマに沿って行います。15時以降は趣味の会を設けていますので自由にご参加ください)。尚、会場の受付は13時30分からとなっておりますので宜しくお願い致します。



皆様方の知恵とお力をお借りしながら楽しい笑顔の溢れるおしゃべり会を継続していきたいと思っております。私もボランティアの一員としてできる限りの事はさせて頂きたいと思っておりますので今後も宜しくお願い致します。(小嶋行雄)

※南関揚げ、お米、ミカンなどたくさんご寄付頂きました。ありがとうございました。😊😊😊

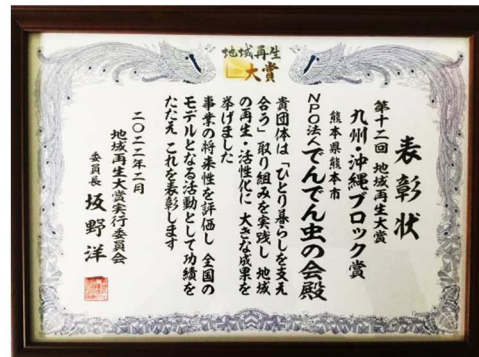
趣味の会

- ・おしゃべり会の後、編み物・色鉛筆画・実用書道をやっており参加者も増えてきました。
 - ・大江校区公民館での書道部活動も、今年は作品展を開いて皆さんに見て頂きたい！
 - ・そば打ち体験も随時行っています。
- ※お申し出は吉富までお願いします。



地域再生大賞！

全国の地方紙 46 社と共同通信社が毎年実施されている地域再生大賞の発表があり、九州・沖縄ブロック賞として「でんでん虫の会」が選ばれました。これまでのひとり一人に向き合いながら歩んできたことが SDG s の「誰一人取り残さない」活動として評価されたことに感謝します。



研修会報告

熊本市内には 95 の小学校区に社会福祉協議会が組織され、民生委員さんらの働きが進められています。また、熊本市から委託を受けて設置されている 27 のささえりあ（地域



包括支援センター) では高齢者を中心とした支援がされています。共通のテーマは、「孤立・孤独が進む社会の中で人々の生活をどう守るか」です。研修会に呼ばれる機会が増えてきましたが、会の活動紹介だけでなく、当事者としての思いを伝える機会となるよう心がけています。

ささえ愛活動！

通院の手伝い・買い物支援・草取り・部屋の片付け・教会の掃除・食料調達・逝去時の遺品整理とお見送りなど、内容も多岐にわたり活動しています。「福祉制度ではお願いできないことなので助かります！」と言われていました。

また、会員からボランティア活動の申し出も頂くようになりました。まだまだボランティア人材が必要です。みんなで一緒に、無理せず楽しく健康のために活動しましょう！（吉富）

お見送り（お別れ会）

1月9日林田孝則さん、3月17日志垣セイコさん、3月31日中幸一さんが旅立たれました。入会なさって10年以上、多くの会員さんもお存じの方や、一ヶ月余りのお付き合い、しかも入院中コロナのためお会いできたのは2回だけの方と、身元引受の依頼を受ける時には毎回考えさせられます。地域とともに見守る必要性を強く感じています。



新スタッフご紹介

新しくでんでん虫の会のスタッフになりました、甲斐芳信です。微力ながらでんでん虫の会の仲間や会員さんの力になれるように頑張っていきます。私一人では何も出来ません。皆さんのお力を借りながら取り組んでいきます。今後ともよろしくお願い致します。

【簡単レシピ】ご紹介！ 🍲 🥘 🍜 🍱

<ヨダレ鶏豆腐> (大：大きじ、小：小さじ)

材料：調味料（ごま油 小1・しょうゆ 小1・みりん 小1・ラー油 大1/2・お酢 大1/2・生姜チューブ 5cm・ニンニクチューブ 5cm・白ゴマ 適量）・スーパーかコンビニに売ってるサラダチキン・絹豆腐

↑↑↑↑↑↑↑↑↑調味料はレンジで1分チンしてね

①絹豆腐にサラダチキンをほぐしながら乗せ ②レンジした調味料をかけて仕上げに小ネギチラシて出来上がり！夕食のおかず、ビールのつまみにも合う簡単レシピです!!

(穴見さんありがとうございました。)

※【簡単レシピ】随時募集しております！



これからの予定

総会

毎年一回、前年度の活動と会計を振り返り、新年度の事業と予算を会員で協議する場が総会です。2022年度は6月15日(水)の予定で、会場は大江校区公民館です。あいぽーとでは30名の定員を越えられないので、会場を変更します。改めてお間違えの無いようご予定ください。詳しくは、6月早々郵送にてご案内いたします。

でんでん虫の会だより 2022 夏号

会員の皆様の体調はいかがでしょう。



梅雨明け宣言後も豪雨が続くなど、天気が体調に影響しやすい季節ですね。そんな中でも盛んなセミの鳴き声が響いています。自然は元気をくれますよね。総会も無事終わり、いよいよ新年度の新たな事業が始まりました。会員ボランティアの皆様のお陰で、暑い中での草刈りなどささえ愛活動もこなすことが出来ています。今後、ますますボランティアを募って、楽しく活動できれば最高です。スタッフも皆で頑張りますのでご協力よろしくお願い致します。(米村雅広)



4月からの活動報告

4月～6月おしゃべり会 13回 参加者のべ 336名(平均 26名)

4月～6月、おしゃべり会は中止なく開催することができました。新聞で知ったなど新しく参加された方もあり、たくさん足を運んで頂いたことに感謝を申し上げます。

趣味の会では、「プチ英会話」もできましたよ。これからも会員さんの得意分野を分かち合って頂き、楽しい時間が増えていくことを願っています。

(小嶋行雄)

(「あいぼーと」1階イベントコーナー、毎週水曜日 14時～15時、一時間程度、色々なテーマに沿って行います。15時以降は趣味の会を設けていますので自由にご参加ください)。

尚、会場の受付は13時30分からとなっておりますので宜しくお願い致します。



大江校区地域交流イベント参加 5月5日

大江校区社会福祉協議会の方にお声かけ頂き、フリーマーケット部門で参加しました。売上金をご寄付頂きました。感謝です！ 参加者7名、お疲れさまでした。



理事会 6月6日会事務所 (オンライン) 18:30~20:00

総会のこと、役員変更のこと、新事業のことなどを説明し、協議されました。

総会 6月15日大江校区公民館 15:00~16:00

おしゃべり会の後に、同じ会場で引き続き総会が開催されました。

正会員総数 221名、出席者数 96名、(内、表決委任 70名)で無事に成立、議長の堀薫さんによる落ち着いた進行ですべての議案にご賛同をいただきました。役員変更につきましては、新しい監事として樋口 務さん(くまも災害ボランティアネットワークセンター、火の国会議などでご活躍)が承認されました。

これからの予定



NEW! おしゃべり会 (東区・南区・西区) ※祝祭日はお休みです。

- ・東区 (ながみね YMCA; 熊本市東区長嶺南 3-1-107...熊本長嶺郵便局裏)
※毎週月曜 14:00~15:00 (8/15 夏期休館)
- ・南区 (みなみ YMCA; 熊本市南区田迎 5-12-50...鶴屋フデイワ浜線店斜め向)
※毎週水曜 14:00~15:00 (8/10 夏期休館)
- ・西区 (YMCA 本館; 熊本市中央区段山本町 4-1...段山町電停前)
※毎週土曜 14:00~15:00 (8/13 夏期休館)
※8/27 (土)、9/17 (土)、10/15 (土) は「生きづらさカフェ」とのコラボ開催です!

書道、編み物、色鉛筆画、プチ英会話など趣味の会参加ご希望の方、その他ご不明な点などお気軽に会までご連絡ください。

お問い合わせ: NPO 法人でんでん虫の会 096-297-8116

「でんでん虫の会だより夏号」は、10月初旬発行予定です。

でんでん虫の会だより 2022 秋号



夏の暑さが一変した季節の変わり目、体調の切り替えが難しい時期になりましたね。コロナ禍の中のおしゃべり会を一旦休みにするか参加者の皆さんからの話を聞きました。やっと思える場所ができたのに皆さんとおしゃべり出来なくなることがつらいから是非続けてほしいと、多数の言葉を頂きました。参加人数が少なくなりがちですが、いくつかのグループで密をさけ対面で間隔を取るなど工夫して話はずむおしゃべり会になりました。

ボランティアささえ愛の草取り、掃除、病院付き添いなどもご参加頂き、自分も手伝いたいとの声も新たに聞きました（無理せず、なんでんかんでん）。

これからもでんでん虫の会の思い、つながりを大事にしたいです。11月は久々のイベントBBQを開催予定です。（米村雅広）

7月からの活動報告

7月～9月おしゃべり会 12回 参加者のべ 208名（平均 17名）

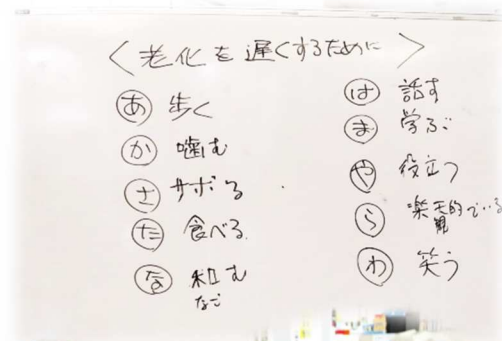
熊本県、熊本市のコロナ感染者急増で、7月～9月のあいぼーとおしゃべり会の参加人数が減りました。

7月は4回開催で参加者人数は85名と平均人数20名以上を保つ事が出来ました。8月は5回開催で参加人数83名、平均16名以上、9月は21日時点3回開催で参加人数は40人、平均13名以上と減ってきました。

コロナが落ち着くまでの間参加は見送りますとの連絡も複数あり、おしゃべり会開催を中止にとの案も出ましたが、参加者のご意見を参考に続けさせていただくことになりました。

おしゃべり会は自由で束縛することなく楽しめる会と思っておりますので、参加されなかった方、された方、双方のご意見、ご意思を尊重しまして感謝を申し上げます。（小嶋行雄）

おしゃべり会（あいぼーと）では、毎月最終水曜日に皆さんからのリクエスト曲を歌います。9月から11月は、「赤とんぼ」「小さい秋見つけた」「愛燦燦」「秋桜」など「秋の歌」です。コロナもそろそろ落ち着き涼しくなってきたので、あなたのご参加をお待ちしています。（吉松裕藏）



（「あいぽーと」1階イベントコーナー、毎週水曜日 14 時～15 時、一時間程度、色々なテーマに沿って行います。15 時以降は趣味の会を設けていますので自由にご参加ください）。尚、会場の受付は 13 時 30 分からとなっておりますので宜しくお願い致します。

「ひとり暮らしでも安心して暮らせる「ひと・地域・仕組み」のまちづくり」

（オープンスペース/おしゃべり会）

※あいぽーと以外にも「おしゃべり会」を開催中です。



東区（ながみね YMCA）

地区の方 2 人が常連さんになりました。毎週笑いの絶えない東区です。会員さんも 1 人時々来られる予定です。（坂本さだ子）



南区（みなみ YMCA）

6 月 22 日（水）から YMCA みなみセンターでおしゃべり会をスタートしました。地区の民生委員、傾聴ボランティア、会員ボランティアのご協力をいただき、少人数ですが毎回楽しい時間を過ごしています。猛暑とコロナが落ち着いたら地域の皆様にたくさん参加頂けたらと楽しみにしています。（吉富文子）

西区（YMCA 本館）

「生きづらさカフェ」とのコラボ開催にしてから、初めて新規の方が、また、別の日には車イスで 4 階までエレベーターで来てのご参加もありました。（甲斐芳信）



第 2 回委員会開催 8 月 1 日 YMCA 本館 18 : 30～20 : 00

さびしい思いで孤立されている方が地域にたくさんいらっしゃると他区でもおしゃべり会をはじめてみましたが、すぐに参加できる方は少なく、地域を見守る地域包括や自治会の方々との交流がまずは課題であることなどが話し合われました。

コロナで外出を避ける方が多いことだけではなく、個人情報保護の観点から地域で見守る方々も本人の了承を得ないと「心配な方がいる」と知らせることが難しいという点も連携す

るための大きな課題であることが見えてきました。

とにかく地道に続けることが大切だと、委員の皆さんの意見が一致しました。

お別れ会でお見送りしました。

9月27日、京極藤雄さん享年97歳、昨年夏に施設入所された時に身元引受をご依頼されての関わりでした。



これからの予定

バーベキュー 11月5日(土) 10:00~石上山公園 参加費500円

久々のイベントです！現地まで送迎が必要な方は9:30 あいぽーと駐車場集合
参加希望者は10月26日(水)までにお知らせください。

NEW!おしゃべり会(東区・南区・西区) ※祝祭日はお休みです。

- ・東区(ながみねYMCA;熊本市東区长嶺南3-1-107...熊本長嶺郵便局裏)
※毎週月曜 14:00~15:00
- ・南区(みなみYMCA;熊本市南区田迎5-12-50...鶴屋フデイワ浜線店斜め向)
※毎週水曜 14:00~15:00
- ・西区(YMCA本館;熊本市中央区段山本町4-1...段山町電停前)
※毎週土曜 14:00~15:00
※は11月12日・26日は「生きづらさカフェ」とのコラボ開催です!

.....
書道、編み物、色鉛筆画、プチ英会話など趣味の会参加ご希望の方、その他ご不明な点などお気軽に会までご連絡ください。

お問い合わせ:NPO法人でんでん虫の会 096-297-8116

「でんでん虫の会だより冬号」は、1月初旬発行予定です。

でんでん虫の会だより 2022 秋号



夏の暑さが一変した季節の変わり目、体調の切り替えが難しい時期になりましたね。コロナ禍の中のおしゃべり会を一旦休みにするか参加者の皆さんからの話を聞きました。やっと思える場所ができたのに皆さんとおしゃべり出来なくなることがつらいから是非続けてほしいと、多数の言葉を頂きました。参加人数が少なくなりがちですが、いくつかのグループで密をさけ対面で間隔を取るなど工夫して話はずむおしゃべり会になりました。

ボランティアささえ愛の草取り、掃除、病院付き添いなどもご参加頂き、自分も手伝いたいとの声も新たに聞きました（無理せず、なんでんかんでん）。

これからもでんでん虫の会の思い、つながりを大事にしたいです。11月は久々のイベントBBQを開催予定です。（米村雅広）

7月からの活動報告

7月～9月おしゃべり会 12回 参加者のべ 208名（平均 17名）

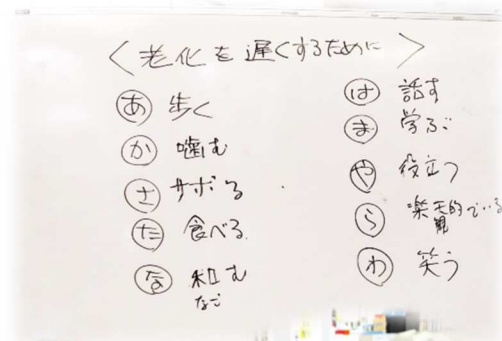
熊本県、熊本市のコロナ感染者急増で、7月～9月のあいぼーとおしゃべり会の参加人数が減りました。

7月は4回開催で参加者人数は85名と平均人数20名以上を保つ事が出来ました。8月は5回開催で参加人数83名、平均16名以上、9月は21日時点3回開催で参加人数は40人、平均13名以上と減ってきました。

コロナが落ち着くまでの間参加は見送りますとの連絡も複数あり、おしゃべり会開催を中止にとの案も出ましたが、参加者のご意見を参考に続けさせていただくことになりました。

おしゃべり会は自由で束縛することなく楽しめる会と思っておりますので、参加されなかった方、された方、双方のご意見、ご意思を尊重しまして感謝を申し上げます。（小嶋行雄）

おしゃべり会（あいぼーと）では、毎月最終水曜日に皆さんからのリクエスト曲を歌います。9月から11月は、「赤とんぼ」「小さい秋見つけた」「愛燦燦」「秋桜」など「秋の歌」です。コロナもそろそろ落ち着き涼しくなってきたので、あなたのご参加をお待ちしています。（吉松裕藏）



（「あいぽーと」1階イベントコーナー、毎週水曜日 14 時～15 時、一時間程度、色々なテーマに沿って行います。15 時以降は趣味の会を設けていますので自由にご参加ください）。尚、会場の受付は 13 時 30 分からとなっておりますので宜しくお願い致します。

「ひとり暮らしでも安心して暮らせる「ひと・地域・仕組み」のまちづくり」

（オープンスペース/おしゃべり会）

※あいぽーと以外にも「おしゃべり会」を開催中です。



東区（ながみね YMCA）

地区の方 2 人が常連さんになりました。毎週笑いの絶えない東区です。会員さんも 1 人時々来られる予定です。（坂本さだ子）



南区（みなみ YMCA）

6 月 22 日（水）から YMCA みなみセンターでおしゃべり会をスタートしました。地区の民生委員、傾聴ボランティア、会員ボランティアのご協力をいただき、少人数ですが毎回楽しい時間を過ごしています。猛暑とコロナが落ち着いたら地域の皆様にたくさん参加頂けたらと楽しみにしています。（吉富文子）

西区（YMCA 本館）

「生きづらさカフェ」とのコラボ開催にしてから、初めて新規の方が、また、別の日には車イスで 4 階までエレベーターで来てのご参加もありました。（甲斐芳信）



第 2 回委員会開催 8 月 1 日 YMCA 本館 18 : 30～20 : 00

さびしい思いで孤立されている方が地域にたくさんいらっしゃると他区でもおしゃべり会をはじめてみましたが、すぐに参加できる方は少なく、地域を見守る地域包括や自治会の方々との交流がまずは課題であることなどが話し合われました。

コロナで外出を避ける方が多いことだけではなく、個人情報保護の観点から地域で見守る方々も本人の了承を得ないと「心配な方がいる」と知らせることが難しいという点も連携す

るための大きな課題であることが見えてきました。

とにかく地道に続けることが大切だと、委員の皆さんの意見が一致しました。

お別れ会でお見送りしました。

9月27日、京極藤雄さん享年97歳、昨年夏に施設入所された時に身元引受をご依頼されての関わりでした。



これからの予定

バーベキュー 11月5日(土) 10:00~石上山公園 参加費500円

久々のイベントです！現地まで送迎が必要な方は9:30 あいぽーと駐車場集合
参加希望者は10月26日(水)までにお知らせください。

NEW!おしゃべり会(東区・南区・西区) ※祝祭日はお休みです。

- ・東区(ながみねYMCA;熊本市東区长嶺南3-1-107...熊本長嶺郵便局裏)
※毎週月曜 14:00~15:00
- ・南区(みなみYMCA;熊本市南区田迎5-12-50...鶴屋フデイワ浜線店斜め向)
※毎週水曜 14:00~15:00
- ・西区(YMCA本館;熊本市中央区段山本町4-1...段山町電停前)
※毎週土曜 14:00~15:00
※は11月12日・26日は「生きづらさカフェ」とのコラボ開催です!

.....
書道、編み物、色鉛筆画、プチ英会話など趣味の会参加ご希望の方、その他ご不明な点などお気軽に会までご連絡ください。

お問い合わせ: NPO 法人でんでん虫の会 096-297-8116

「でんでん虫の会だより冬号」は、1月初旬発行予定です。

でんでん虫の会だより 2022 冬号



ちょっと早めに冬号をお届けします。

今年の事業の一環として、もっと皆さんの実情を知って、少しでも「安心して暮らせるまちづくり」に生かせるよう「アンケート」を実施します。詳しくは別紙をご覧ください。是非、ご協力よろしくお願いいたします。

「傾聴勉強会」や「花見」も開催予定です！

10月からの活動報告

10月～11月おしゃべり会9回 参加者のべ220名 (平均24名)

おしゃべり会(あいぽーと)10月の参加人数は4回開催で108人、11月は5回開催で112人、合計220人で1回の平均が24人強と回復して来ました。皆様に感謝を申し上げます。

年末年始にかけて寒さが厳しくなって来ます。皆様、体調やコロナ、風邪等に気を付けられ今後のおしゃべり会に参加して頂ければと思います。宜しくお願い致します。(小嶋行雄)



毎月最終水曜日に皆さんからのリクエスト曲を歌います。あなたのご参加をお待ちしています。(吉松裕藏)

*「あいぽーと」1階イベントコーナー、毎週水曜14時～15時、会場の受付は13時30分から、15時以降は趣味の会を設けていますので自由にご参加ください。

趣味の会

書道部では参加者も増えてきて、おしゃべりしながら心の癒しの時間を楽しんでいます。最近



は作品作りやカレンダー作りに取り組んでいます。

あいぽーとでの趣味の会も少しずつ再開できてきました。編み物、色鉛筆画、英語、実用書道など、趣味の会は経験者だけではなく初めてやってみようという人も大歓迎です。気軽にご参加ください。



ボランティア活動

10月17日(日)は小雨の中、大江校区公民館の草取りに参加頂きありがとうございました。「大変きれいになりました」と公民館から感謝の言葉と寄付金を頂きました。



「ひとり暮らしでも安心して暮らせる「ひと・地域・仕組み」のまちづくり



※あいぽーと以外にも「おしゃべり会」を開催中です。

東区（ながみね YMCA）

相変わらず楽しいおしゃべり会です。平均7～8人なので話しやすいと言われてます。

障害支援センターの職員さんたちも見学に来られました。当事者の方も二人来られましたが続けてくるのは難しいようでした。次年度はどうなるかわかりませんが、3月までは今まで通り楽しい会でありたいと思っています。（坂本さだ子）



南区（YMCA みなみセンター）

南地区のボランティアの協力を頂き、少人数ならではの楽しい時間を過ごしています。最近は「笑いヨガ」や「歌声広場」を実施しました。（吉富文子）

西区（YMCA 本館）

「生きづらさカフェ」とのコラボ開催で参加者が増えていますよ！（甲斐芳信）



第3回委員会開催 11月18日 YMCA 本館

18:30～20:00

9月から徐々に参加者が増えてきて、これをきっかけにボランティアや連携する地域とのつながりができるなど評価されました。今後、さらに「学習会」「アンケート」実施を進めて「報告書」「報告会」に向かいます。次年度にいかに活かしていくのが課題です。



バーベキューで楽しくおなかいっぱい！

11月5日石神山公園 10:00～

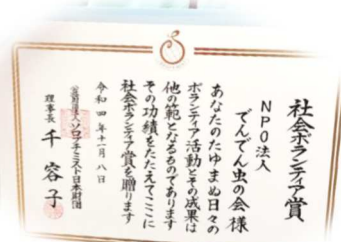
コロナ禍で自粛していたので皆さん待ちに待ったイベント、やっと開催できました。秋晴れの中39名と多くの方に参加頂き、久しぶりに会う方もあり会話が盛り上がっていました。



社会ボランティア賞！！

11月8日広島県立総合体育館

ソロプチミスト日本財団から社会ボランティア賞をいただきました。ご推薦頂いたソロプチミスト熊本わかばの皆様、推薦状を頂いた潮谷義子様、本当にありがとうございました。



これからの予定

傾聴勉強会 1月18日・2月8日(水) 15:00~16:30 あいぽーと 参加無料

2回の内容が異なりますので、可能な方は是非2回ともご参加ください。

第4回委員会 2月10日(金) 18:30~20:00 YMCA 本館

2月末~3月初旬に報告会も開催予定です。

花見 4月1日(土) 10:00 集合 白川公園 参加費 500円

飲み物は各自ご持参ください。雨天時は中央公民館内で実施予定です。

おしゃべり会 4か所 (年末年始のご案内)

- ・あいぽーと；12月21日(水)まで。1月11日(水)から、毎週水曜。
- ・東区(ながみね YMCA；熊本市東区长嶺南3-1-107…熊本長嶺郵便局裏)
※毎週月曜 14:00~15:00 (12月19日まで、1月16日から。)
- ・南区(みなみ YMCA；熊本市南区田迎5-12-50…鶴屋フーディーワ浜線店斜め向)
※毎週水曜 14:00~15:00 (12月21日まで、1月11日から。)
- ・西区(YMCA 本館；熊本市中央区段山本町4-1…段山町電停前)
※毎週土曜 14:00~15:00 (12月24日まで、1月7日から。)
※月2回は「生きづらさカフェ~ただの居場所~」とのコラボ開催です。

書道、編み物、色鉛筆画、プチ英会話など趣味の会参加ご希望の方、その他ご不明な点などお気軽に会までご連絡ください。

お問い合わせ：NPO 法人でんでん虫の会 096-297-8116

「でんでん虫の会だより春号」は、4月初旬発行予定です。

あなたも会員やマンスリーサポーターになりませんか？

「でんでん虫の会」は、お互いに支えあうことを願う団体で、その趣旨に賛同される会員やマンスリーサポーターを随時募集中です。あなたのご支援とご参加をお待ちしています。ささえ愛の輪を一緒に広げましょう！

※QRコードを読み込んでインターネット情報も是非ご覧下さい。👉

正会員	一口以上	500円(年額、年度単位)
賛助会員・個人	一口以上	2,000円(同上)
賛助会員・法人	一口以上	5,000円(同上)
マンスリーサポーター	月々	500円以上

ホームページ↓



マンスリー
サポーター↓



※会費やご寄付もクレジットカード決済をご希望の方はこちらのQRコードから→ご利用可能です。

※資料・振込用紙の郵送をご希望の方はお問い合わせください。

2022年度の会費納入がまだの方は、下記口座よりお振り込みください。

スタッフにお渡しいただいても構いません。

定款上、3年間未納の方は会員登録が解除されることになっていきますのでお気を付けください。
(ゆうちょ銀行の振込用紙をご希望の方はお知らせください。)

払込口座 ゆうちょ銀行 記号01780-7 番号142730
トクヒ) デンデンムシノカイ

※ゆうちょ通帳から直接送金すると手数料はかかりません。

肥後銀行 支店名：味噌天神支店（157）口座：普通口座 1518278
名義：NPO法人でんでん虫の会 代表 吉松裕藏(よしまつゆうぞう)

ひとり暮らしを支えあう NPO 法人 **でんでん虫の会**

「なん**でん**かん**でん**、だれ**でん**かれ**でん**、いつ**でん**どこ**でん**」会員同士がお互いに支えあうことをめざしています。

〒862-0976 熊本市中央区九品寺3-3-26 (096) 297-8116

email: info@denden64.org FAX: 096-300-3394

【ホームページ】 <https://denden64.org/>

【会費・寄付金クレジットカード決済】 <https://syncable.biz/associate/DENDEN64/>

一人暮らし集う場 広げよう

熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」(吉松裕蔵代表)が中心となり、「一人暮らしでも安心して暮らせるまちづくり」を目指す組織が発足した。同法人が続けてきた週1回の「おしゃべり会」を他団体と協力して各地に広げ、「誰一人取り残さない」支援に取り組む。

8日、熊本市中央区の市民活動支援センターあいぽーとであったおしゃべり会。「暑くても冷たい水は飲まない。こっ見えて、デリケートなので」。マイクを握った高齢女性がおどけて言うと、約30人の参加者から温かい笑いが起きた。この日のテーマは「暑い日の過ごし方」。何でもない日常を語り合ううちに、会場は緩やかな一体感に包まれ

熊本市のNPO呼びかけ



一人暮らしの人を支援しようと「でんでん虫の会」が週1回開く「おしゃべり会」。今後は他団体と協力して熊本市内各地で開く＝8日、熊本市

た。一人暮らしの人たちを支援してきた「でんでん虫」。おしゃべり会は2011年から続けており、孤立感、孤独感を抱える一人暮らしに寄り添い、支援が必要な人々には行政など別の支援先につなげてきた。

熊本市の女性(70)は早くに離婚し、子どもも自立。約30年間一人暮らしを続ける中、本紙の記事で会の存在を知り、昨夏から参加する。「病氣も経験し、この先のことを考えると不安になる。みんなさまざま問題を抱えながら、安心して話せるこの場が心よりどころとなっている」と話す。

新たな組織は、このおしゃべり会を各地に広げようと

「おしゃべり会」まず3カ所

「でんでん虫」が呼びかけ、熊本YMCAや熊本市校区社協連絡協議会など7団体で構成。「ひと・地域・仕組み」づくりを進め、現在、あいぽーとのみで開いているおしゃべり会を市内3カ所のYMCAでも開催するほか、支援者養成のための学習会開催や構成団体の連携強化を図っていく。5月30日には初会合があり、熊本学園大の那須久史特任講師を委員長に選んだ。

でんでん虫の会の吉松代表は「顔の見える関係が大事だが、会場が1カ所では参加しにくい人もいた。今後は民生委員なども連携し、支援が必要な人を地域で見守る態勢を作りたい」と話している。

(福井一基)

◇メモ 熊本YMCAのおしゃべり会は、ながみねファミリーセンター(東区)が20日、みなみセンター(南区)が22日、本館(中央区)が25日から始まる。

【引用サイト】https://npocross.net/2409/?fbclid=IwAR00Yh87HHeurL6MtxKYXiJ67s-3NrpZoJmodlZWahu_WwY9cgOKvXxnkLk

NPO CROSS | NPO オピニオンサイト

投稿者: NPO CROSS ライター オン 2022 年 9 月 14 日

<取材・執筆>Shiraogawa Haruna <取材先>NPO 法人でんでん虫の会 代表 吉松 裕藏さん 事務局長 永田 貴子さん

おしゃべり会の様子



1人で暮らす元野宿者、高齢者、障害者、DV被害者らが安心して暮らせる地域づくりを進めている NPO 法人でんでん虫の会(熊本市、吉松裕藏代表)。同団体が1人で暮らす人たちの孤立を防ぎつながりをつくるために開いているのが、「おしゃべり会」です。参加者の年齢層や置かれた立場はさまざまで、相談や支援に結び付くこともあるといいます。「おしゃべり会」の工夫、込められた思いなどを吉松代表、永田貴子事務局長に聞いてみました。



NPO 法人でんでん虫の会とは: 野宿生活からアパート住まいに移った人の孤独死にショックを受けたことをきっかけに 2010 年設立。相談や交流の提供、通院・行政手続きの同行、仕事のあっせんなどを伴走型でサポートしています。スタッフ 8 人が、関係機関と連携しながら対応。2020 年度の相談実績は延べ約 5000 件。

——おしゃべり会の開催のきっかけを教えてください

代表の吉松裕藏さん

吉松さん: (孤独死を防ぐにはどうすればいいのか)話し合った結果、アパートに移った人には「相談したら迷惑をかける」「入居でお世話になったのだから、あとのことは自分で」という遠慮があると気づきました。

(防止策を話し合っていたら)うつ病を抱えている男性が、「あそこに行けば誰かいると分かっていたら、安心できる。そんな場所があればいいのに」と言いました。これを受け、熊本市市民活動支援センター・あいぼーとで毎週水曜日に「おしゃべり会」を催すようになりました。2022 年度から、開催場所を4カ所に広げています。



——おしゃべり会ではどんなことをしていますか？

事務局長の永田貴子さん



永田さん:ぶらっと立ち寄って気に入ったら座り、気に入らなければ自由に帰ってもいいんです。名前や素性も無理に聞きません。たわいのない話をしていると、参加者同士で気心が知れるようになります。「悩みを相談してもらおう」と身構えるのではなく、話したいときに話してもらい、その中で悩みを聞きます。

話題は好きなテレビ番組や好きな色、季節に応じた世間話など。参加者には1人ずつ順番にマイクを回します。ボランティア、見学目的の学生、取材に来た人にも加わってもらいますよ。「名前の紹介

だけでも大丈夫」「次の人にパスしてもいいです」と声掛けして、話が苦手な方でも居心地よく過ごせるようにしています。

何を言っても噂にはならず、非難を受けることがないと分かっていると、話したくなるものなんですよ。日常で言えないことをついつい言ってしまう。

――おしゃべり会を通じて、参加者さんはどのように変化しましたか？

永田さん:支えられるだけだとすごく重荷になりますが、ここでは他の人が話しているのを聞くだけで、支える側になっている。いるだけで、誰でも支える側にまわれます。

相談をきっかけにおしゃべり会に来るようになった70歳代くらいの女性に、医療・福祉・生活支援団体が連携するための委員会に当事者として参加してもらいました。おしゃべり会の大切さをしっかり語ってくださり、会の中でも初めて参加した人がいたら「みんな友達なのよ」「安心して話していいんだよ」と声掛けして座席を空けたりするようになっていきました。同じ気持ちを抱える者同士だと、学ぶ必要なく、相手が傷つかない聞き方、話し方を自然にさいます。

――「助けて」と言ってもらうための工夫を教えてください

吉松さん:顔の見える関係を作るのが大切です。そんな関係があれば、「(おしゃべり会に)そういえばあの人は来ていないね」と分かり、「困っていることはない？」と聞けるわけです。特に男性は「泣いたりしちゃだめ」「我慢して生きていくんだ」と考えて、助けてと言えない人が多い。災害公営住宅で男性の自殺が多いともいいますね。

――他者との交流が苦手で、自宅に引きこもる方もおられると思います。そのような孤立リスクの高い方を含めて、参加してもらう工夫はありますか？

永田さん:ひとつのきっかけは、困りごとの相談ですね。それから、参加は無理でも、「いつでも扉は開いているよ」と思ってもらうのが大切だと考えています。

家から出られなくても、電話はできる方もいます。電話をかけてこられてあいさつだけして、「きょうもお互いつながった」と一安心されます。そんなことを続けていたら、自然と出てこられるようになるケースもあります。

吉松さん:ケースワーカーから、「おしゃべり会に行ってみらんね」と参加を促されて来る人もいれば、来ない人もいます。それでも、「行こうと思えば、行けるんだ」という感覚を持ってもらうのが大事。「そこにある」というのが、安心につながります。また、(NPO 法人でんでん虫の会には)今はフルタイムのスタッフはいませんが、手分けしながら訪問したり、電話したりするようにしています。

――そもそも「孤独ではない」とはどのような状態を指すのでしょうか。孤立防止の着地点はどこに置くべきでしょうか？

吉松さん:住む場所である「ハウス」があっても人とのつながりを失っている人は「ホームレス」と言えるのかもしれませんが。コロナ禍で増えていると感じます。

「自立支援」といわれますが、自立は孤立につながりがち。つながっている安心感があれば、社会で活動し、1人でもがんばれるのではないのでしょうか。高橋書店の日めくりカレンダーにあった「1人じゃないから1人でいられる」という言葉を大切にしています。



——身寄りがない方の看取りもされています。人生の最期を誰かに見届けてもらえるのは心強いですね。

永田さん: (看取りは) 特に熊本地震後は増えてきています。お送りするときも、斎場にご理解いただいて、お坊さんは呼べませんが30分ほど会員が集って送ります。生前好きだった歌をみんなで歌ったり、深く知らない方であっても吉松さんがその年代のことを語ったりします。

吉松さん: 1人暮らしの人にとって不安なのは、「骨をどう

しようか」「誰も送ってくれないのかな」など、最期はどうなるのかということ。12年間で30~40人を送ったんじゃないかな。1度もお会いしたことがない方の身元引受を頼まれることもあり、斎場でお会いして「はじめまして。さようなら……」というお送りになります。でも、気持ちを込めて送りたいですね。

お酒が原因で家族と30年前に別れた男性が、亡くなる前に再会して看取られた印象的なケースも。喧嘩を繰り返して上手くいかなかったきょうだいも、お別れの前に仲直りしたこともありました。私たちは支援団体というよりも、寄り添いを大切にする疑似家族なのかもしれません。

——伴走型の手厚いフォローを続けるのは、大変な苦労があると思います。継続のコツはあるのでしょうか？

永田さん: 私たちも常に危機感と隣り合わせですが、会員さんからは「吉松さんたちがいなくなったらこの会はどうなるのか」「でんでん虫の会はこうあるべきなのになってないよ」など、「この会がないと困る」という人たちから声があがるので、そんな会員さんに「ちょっと助けて」「そこまで言うんやったらあんたもやって」と声を掛け、巻き込むようにしています。おしゃべり会だけでも最低限、無料の会場で続けていけるかなど。

もちろん、事務所や車を維持したり、記録を残したりするため、必要な最低限の寄付金で支えていただきたいと思います。昨年度は助成金がなくて、マンスリーサポーター(月額寄付者)や賛助会員さんを募って、かろうじて年を越せました。

吉松さん: ある時、男性ホームレスが路上の空き缶や新聞紙を「これはごみ、これもごみ」と指差して、「俺もごみだけ」と自分を指した。胸にずしんときました。自分を含めて、人をごみにしないためにも、みんな誰かの役に立てるといい。私たちの活動を継続可能にするのは、お金だけでなく「担っていこう」とする人がずっと続けてくれることだと思います。助ける側という立ち位置ではなく、私たちは会員同士の支え合い。気負うこともないので、続けられるのかなと思いますね。

【感想】

当事者同士で「孤立」についてありのままを語り、共感してもらえる「おしゃべり会」のような場所はあるのかなか無いのではないのでしょうか。貴重な活動だと実感しました。公的な支援ももちろん大切ですが、「孤立」を防ぐには家族や友達の間で交わされるような「寄り添い」や「支え、支えられる関係」が欠かせないのかもしれない。

また、印象に残ったのが「(おしゃべり会で)話を聞くだけで、既に支える側になっている」という言葉です。でんでん虫の会のスタッフさんのように深く関わるのは難しくても、ご近所さんと仲良くしたり、催しを手伝ったりと、日常生活で何か自分ができることがあると感じました。

毎朝ごみ拾い ユーは何者？

正体は英語講師の米国人女性(熊本市)

「生徒の掃除」きっかけ

10年以上活動

熊本市内で毎朝「自転車に袋を積んだ外国人女性がマシックハンドを使い、雨の日も風の日もごみ拾いをしてい



ウォーターマン・ジュリーさん

午前7時、熊本市中央区保田窪1丁目のローソン付近。通勤や通学で人々が行き交う中、一人の金髪の女性が自転車を押してさっそうと現れた。



愛用のマシックハンドでごみを拾うウォーターマン・ジュリーさん
熊本市中央区

アルミ缶、ペットボトルなど分別のための5種類の袋を詰め込み、カラスなどに荒らされてぼろぼろになったごみ袋を補修するための粘着テープやひもを入れた赤色のポーチも持ち歩いている。道路に素早く目を配り、落ちてくる菓子パンの袋をマシックハンドですっきりとつかんでいた。



ごみ収集場所まで開いたごみ袋を見つけ、粘着テープで補修するウォーターマン・ジュリーさん

S編

それ、調べます

笑した装備だが、「最初は短いトンクを使ってたけど、近所のおじさんにお薦めされました」と話した。

1983年、大学のクラブ活動の一環で初来日。日本の街並みが気に入り、米国と日本各地を歩き来しながら英語講師をしていた。2003年に来熊し、九州学院高(熊本市)を経て尚綱高に勤務。現在、米国人の夫と二人暮らしだ。

なぜごみ拾いを始めたのか。米国の学校ではスタッフが校内を掃除するという。ところが「日本では生徒が掃除するんだ」と新鮮な驚きがあり、自分もやってみようごみ拾いを始めたそう。

通勤前の1時間、忙しい日は15分ほど。悪天候でも毎日近所を散策しながらごみを拾う。この10年でごみの量は減っておらず、ポイ捨てが絶えないという。

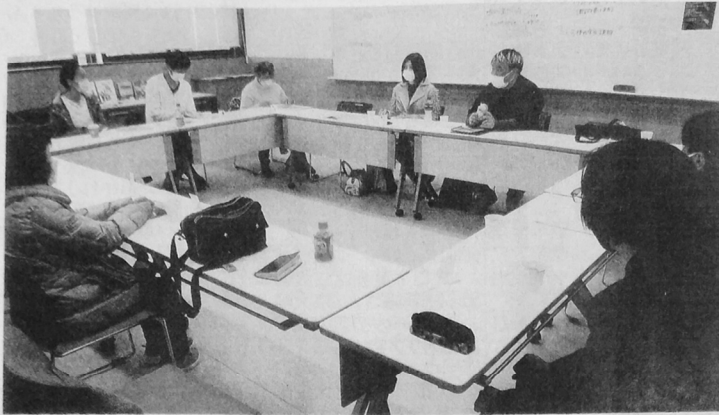
長年の活動が評判となり、20年2月には熊本市の表彰も受けた。通学途中の生徒らと「グッドモーニング」とあいさつを交わしながら、「今日は誰に会えるかな」とか、「あっちの道まで行ってみよう」とか、毎日わくわくしながら拾っています」とほほ笑んだ。(岡本遼)

全ての人に居場所を

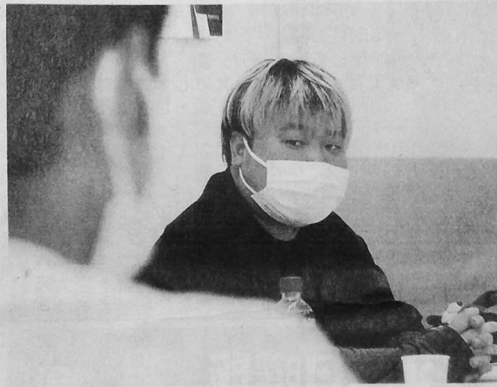
老若男女集うカフェ 生きづらさを語り合う

うつ病などに苦しみ、生きづらさを抱え続けてきた熊本市の男性が、ともに心の内を語り合う「カフェ」を定期的に開いている。その名も「ただの居場所」。私たちは、ただいだけいい。そんな思いに賛同した老若男女が集う場として、参加者が増え始めている。

熊本市原田さん主宰



生きづらさを抱えた人たちが心の内を語り合う「カフェ」ただの居場所。当事者も支援者も一緒にあって、さっくばらんに自身の悩みなどを打ち明ける。熊本市



生きづらさカフェ「ただの居場所」を主宰する原田智浩さん。参加者の話にじっくり耳を傾ける。

「本当にずっと独り。しやべらな過ぎて喉の筋肉が衰え、のみ込むこともできない」「一人に対面すると圧迫感がある。目を合わせて話せるよう克服したい」昨年12月10日午後、熊本市の熊本YMCA本館。集まった12人は自身の悩みやコンプレックス、日常で感

じる世間との「ずれ」などを赤裸々に打ち明けた。中心にいる金髪の若者、原田智浩さん(25)は「緊張したら話さなくていい。リラックスして、気楽に」と折に触れて声をかけ、場の空気をほぐした。子どもの頃から「しんどさ」があった原田さん。小学校では普通に振る舞ったが、家で感情が爆発し、母親に当たり散らした。小学5年で発達障害の疑いと診断された。関東の大学に進学すると、明るく華やかな友人と自身を比べて劣等感が募り、人と話すこともできなくなった。体調は悪くなる一方。太学に行けなくなり、家に引きこもる生活。誰にも相談できず、どこにも居場所が

こもれば の詩

なくなつた。1年生の11月、心配して上京した母親は、日常生活もまともに送れなくなった原田さんの暮らしに絶句した。

熊本市内での入院を経て専門学校で介護福祉士の資格を取り、介護施設に就職。そこでも体調を崩し、さらに7カ月間入院した。

カフェを思いついたのは、自分自身の居場所が欲しかったから。学生時代に孤立した経験から、思いを吐きだし、人と共有できる場を求めていた。

7月に開いた初回には5人が参加。高次脳機能障害や統合失調症、虐待を受け、トラウマを抱えた人たちが、それぞれの生きづらさを吐露した。話し終えた参

加者は、見違えるほどずっさりした表情に。原田さんは「自分が求めていたものだ」と、大きな手応えを感じた。現在は熊本市のNPO法人「でんでん虫の会」と連携し、同会の「おしゃべり会」に合わせて開いている。

「人の役に立つ人間になるべきだ」という強迫観念に満たされた社会。そんな風潮にあらがひ、役割がなくても、そこにいるだけで受け入れてもらえる場所をつくりたいという原田さん。「解決できなくても、肩の荷を下ろすだけでいい。誰一人孤立せず、すべての人に居場所があることを伝えていきたい」と前を向いた。(福井一基)

出会いと発見

—実践の扉Ⅲ

ひとり暮らしの孤立を防ぐ 支え合いの場づくり

特定非営利活動法人でんでん虫の会

命を守るための居場所 「おしゃべり会」

熊本県熊本市中央区の市民活動支援センター・あいぽーとで、毎週水曜日の午後2時から「おしゃべり会」が開催されている。ひとり暮らしの高齢者や障害者などの地域住民が集まり、季節にまつわる話や好きなテレビ番組の話など、さまざまなテーマでおしゃべりをする。聞い

ているだけでもよいし、参加者が心地よくいられる空間を大切にしている。

2022（令和4）年10月上旬に実施された会のテーマは、「秋といえは」。輪になって座り、マイクを回しながら、ひとりずつ秋と聞いて思い描く風景や旬の食べ物などについて順番に語る。新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年は参加者が減っていたが、この日は25人ほどが集まった。趣味で野菜をつくっているというひとり暮らしの男性や、足のふらつきがあつて歩きづらいが人とのつながりを求めて来た人もいた。

「自分のことをたくさん話す人もいるし、周囲の言葉に感化されてポツポツと話し出す人もいます。名前や素性は無理には聞きません。たわいない話をしていううちに、参加者同士で気心が知れるようになり、少しずつ困っていることなどを話してくれるようになります」。こう話すのは事務局長の永田貴子さん。おしゃべり会は、その趣旨に賛同するでんでん虫の会の会員同士の支え合いの活動として2011（平成23）年から続いて



年齢や性別、障害の有無、国籍に関係なく誰もが自由に参加できる「おしゃべり会」。写真は、活動に取り入れている「笑いヨガ」のひとコマ

きたが、2022年6月からは、新たに熊本市内の東区と西区、南区で会員以外の人も対象に開催している。

「会場を増やした理由は、助けての声が増えているからです。民生委員や地域包括支援センターなど地域と連携しながら、孤立している人を見つけ、支援や社会とのつながりをつくっていくことが必要です」と永田さん。当事者だけでなく、医療機関や地域支援団体、行政などからの支援要請も増えるなか、支え合うことのできる「人・地域・仕組みづくり」

ひとり暮らしの高齢者や障害者、DV被害者などの安否確認や相談活動などを通じて孤立を防ぐ活動を続ける特定非営利活動法人でんでん虫の会。日頃の人とのつながりが命を守ることになる。「ひとりじゃないよ」を合言葉に、社会参加や相互交流の機会をつくりながら、人と人とのつながりや絆を深め、安心して暮らせる地域づくりを行っている。代表の吉松裕藏さんと事務局長の永田貴子さんにお話をうかがった。

が急務だと感じている。

金銭管理から病院の付き添い、身元保証人まで

でんでん虫の会の名前の由来は、「なでんかんでん、だれでんかたでん、いつでんどこでん」。熊本弁で、どんな理由があっても誰でもいつでもという意味で、家族のように寄り添いながらも、過ごそうという思いが込められている。創設に携わった代表の吉松裕藏さんは「当初は、ひとり暮らしを支える会にしようと考えていましたが、お互いさま

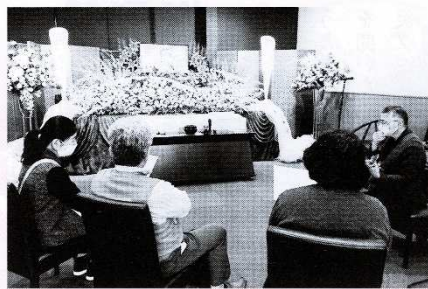
の関係を大事にしたいので、支えるだけでなく、支え合う会にしよう」と話し合いました」と振り返る。

登録者は現在700人弱。全員が日常的に支援を必要としているわけではないが、吉松さんや永田さんからスタッフの携帯電話には日々さまざまな相談が寄せられる。最も多いのは金銭管理（生活費支払い支援）に関する内容だ。ギャンブル依存症で資金が手元にあるとすぐに使ってしまうなどお金の管理や計算が難しい人の預金を預かり、適切に使えるようサポートする。

「洗濯機が壊れた」「トイレの水が流れない」「一緒に買い物へ行つてほしい」などの生活支援に関する相談、病院や施設への送迎依頼もある。会員のなかには、生活支援員やホームヘルパーなどのサポートを受けながら日常生活自立支援事業を活用している人も多い。しかし、障害や介護の制度から外れてしまう「ボーダーライン」にありながら、見守ってくれる支援者がいない場合、孤立してしまうことも少なくない。そこで、でんでん虫の

会では、時間外の相談などさまざまな制約があつて対応できない行政制度の合間を縫うように多様な相談に応じている。

また、近年は「身元引受人になつてほしい」という相談が増えた。身元引受人とは、本人が亡くなった時、葬儀の手配や居室の残置財産の片づけ、退去手続きなどを担い、身柄を責任をもって引き取る人のこと。介護施設や老人ホームへの入居の際に、身元引受人が必要であることが多く、でんでん虫の会には施設からの相談も相次いでいる。



ひとり暮らしの高齢者などの身元引受人を請け負うことも。出棺の前に歌を歌い故人を思う時間を大切にしている



2020年7月の豪雨災害で甚大な被害を受けた熊本県芦北町の復興イベントに出展

知人に身元引受人を依頼したが断られ、最後の手段としてでんでん虫の会の門をたたく人もいる。身元引受人の役割や責任は決して軽いものではないが、吉松さんは「出会いがあれば別れもあります。身寄りのない人や親族がいても疎遠の人は、最期にどうなるのか、すごく不安に感じていて、その気持ちに寄り添い支える必要があります」とその役割を語る。

**支えられる人が支える人になった
熊本地震**



おしゃべり会では、お花見やクリスマス会などの季節に合わせたイベントのほか、編み物や書道、絵画といった「趣味の会」も開催している

社会にうまく適応できずに孤立してしまう人は、行政の相談窓口に行っても説明や理解が十分にできず、受けられるはずの支援が受けられないままになってしまっていることがある。特に、2016（平成28）年の熊本地震や、新型コロナウイルス感染症の蔓延は、もともと弱い立場にあった人々をますます追い詰めている。熊本地震では複数回の揺れで多くの家が全半壊し、一時18万人が避難所に避難した。発災後、でんでん虫の会には、自力での生活再建が難しい被災者からの相談

が増え、最近では地震の影響でマンションが解体され新しい家探しができずに困っているといった相談も寄せられている。

当時、発災直後に避難所を回って会員の安否を確認した吉松さんは、おしゃべり会のメンバーが避難所で集まって助け合う姿を見て、「これまでおしゃべり会を開催してきたよかった」と感じた。ちょうど地震が起きる前に防災に関する講座を開いたことがあり、その時に配った防災グッズを持ってきた人もいた。吉松さんは豚汁の炊き出しを行ったり、県外から届いた物資を仮設住宅に届けたりと、発災から1年以上にわたって、元ホームレスの人たちと一緒に被災者支援に奔走した。

「あの時、それまで支えられる側だった人が誰かを支えようと奮闘している姿を見ました。以前に『俺はゴミや』と言っていた人も一生懸命でした。支えられるばかりでなく、いつか支える側になれるように、困った時は『お互いさま』の気持ちで、みんなが誰かの役に立てるといいと思います」と吉松さん。

出会いと発見 ー実践の扉

特定非営利活動法人でんでん虫の会

所在地	熊本県熊本市中央区九品寺3丁目3-26
電話	096-297-8116
ホームページ	https://denden64.org/
事業内容	相談や交流の場の提供、通院・行政手続きの同行、仕事紹介などの伴走型サポート事業 など

「ひとりじゃない」。そう伝え続けたい

特定非営利活動法人でんでん虫の会

代表 吉松 裕藏さん
事務局長 永田 貴子さん

でんでん虫の会設立のきっかけは2010（平成22）年にさかのぼる。当時、社会福祉士として福祉施設などで働きながら、ホームレスの人におにぎりを配るボランティアをしていた吉松さんは、家や身寄りのない50代の男性と出会い、アパートの入居をサポートした。しかし数年後、遺体で発見され、死後2か月がたった。

「なぜ相談してくれなかったのか」との疑問に、ホームレスの知人は、「これ以上、迷惑をかけられないとギリギリまで我慢する。助けてもらえばかりでは重荷になる」と答えた。「こんな悲しい出来事を繰り返したくない」と、吉松さんは「日頃の関係性」をつくる居場所を通じて、命を守る取り組みを始めた。そんな活動に賛同し、8年前に入会し、3年前に事務局長に就任した永田さんは、「おしゃべり会は団体の軸になる活動で、地域の行事に参加したり、掃除や草取りをしたりと、会員のニーズを結びつける活動も行っています。生活困窮の厳しさを感じたことがある人は、他者の気持ちがわかり、“支える人”になるのです」と話す。



でんでん虫の会のスタッフの皆さん。右端が吉松さん、左端が永田さん。山本さん（中央）は当事者として支えられる側から理事となり10年以上会を支え続け、2021年6月に逝去。「きつとあの世でおしゃべり会の司会をしている」と死後も会員の心を支え続けている

「感染より孤立が怖い」
コロナ禍で急増する相談

熊本地震後も続けてきたおしゃべり会だが、コロナ禍で中止を余儀なくされた。永田さんは、「生活リズムが狂ってアルコール依存がすすんでしまった人、自助グループの集まりがなくなり足腰が弱っ

てしまった人などから、多くの相談が寄せられました。おしゃべり会に毎回参加していた高齢女性とは電話で連絡をとりながら再会を待っていました。開けようとした頃には亡くなっていました。孤立が深まっているのを感じます」と語る。おしゃべり会は今、「ひとりでも参加したい人がいれば実施する」との方針で

継続している。「コロナの感染よりも家の中にひとりであるほうが怖い」「会を開き続けてほしい」という声があるからだ。孤立を防ぐ活動は常に危機感と隣り合わせだが、家族のように集まれる場があれば、つながっている安心感が生まれ、ひとりでもがんばれる。そう信じて誰もが安心して暮らせる地域をめざしている。

2022 年度役員・スタッフ一覧

*アイウエオ順

<役員>

(理事)

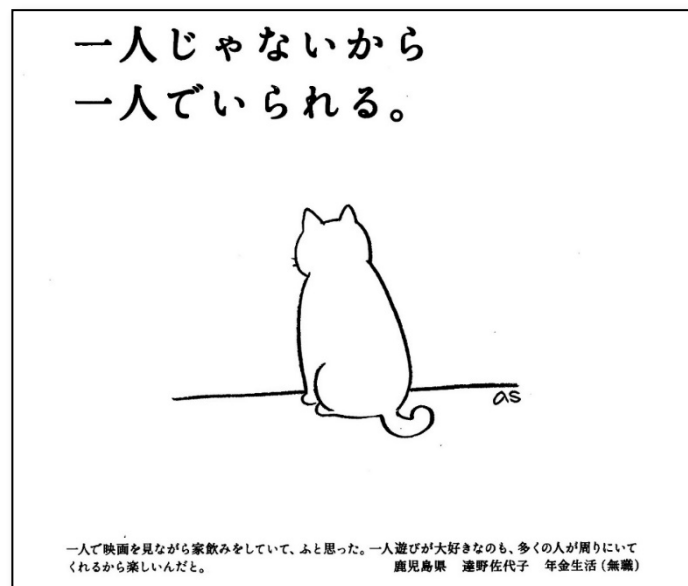
川崎 孝明
木佐貫 恵津子
高林 秀明
谷 昭子
俵 恭子
那須 久史
本庄 弘次
山下 孝治
吉松 裕藏
米村 雅広

<スタッフ>

甲斐 芳信
倉元 富美代
小嶋 行雄
坂本 さだ子
永田 貴子
船本 満幸
吉富 文子
吉松 裕藏
米村 雅広

(監事)

村山 鉄次
樋口 務



出展 (高橋書店『名言・格言日めくりカレンダー』、手帳大賞応募作品からの転載)

でんでん虫の歌

作詞 大島 学

作曲 吉松裕藏

2019年6月15日

朝 目が覚めると
今日も朝日が 上がってる
さわやかな 風が吹き
小鳥がさえずり
「がんばって」と ささやきかけてる

※みんな 仲間だ 共に助け合い
歩こう でんでん虫 でんでん虫
われら でんでん虫

つらくても 幸せは やってくる
手を取り 笑顔で 進もう

※くりかえし

©NPO法人でんでん虫の会

表紙「翔」門池正章作(書道部)

NPO法人でんでん虫の会



事務局 〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺3-3-26
電話:096-297-8116

<http://denden64.org> info@denden64.org

Facebook:<https://www.facebook.com/Denden64/>